



国際学術研究

International Journal of Advanced Studies



2018
Vol.2

田中義郎

ハーバード大学プロジェクト

「繁栄への道(Pathways to Prosperity)」と新たな高大接続
モデル、カレッジ・レディネス 1

山崎慎一

ASPIREの活動におけるジェンダー問題を考える

教育プログラムの開発とその効果の検討 8

国際学術研究

International Journal of Advanced Studies

小笠原惇也

UNAI ASPIRE Japan略史—発足から現在まで— 13

2018
Vol.2

ハーバード大学プロジェクト「繁栄への道(Pathways to Prosperity)」

と新たな高大接続モデル、カレッジ・レディネス

総合研究機構長

田中 義郎

1. はじめに

2011年2月、ハーバード大学教育大学院は、繁栄への道(Pathways to Prosperity)と題したプロジェクト報告書を発表した。副題には、「21世紀のために、アメリカの若者たちの教育目標を達成する」と書かれている。この報告書は、中等教育に始まる若者たちの近未来の職業選択と連動するカリキュラムや訓練を系統化する教育システムについて論じている。そこで、若者たちは、電気工になるか、大学教員になるか、と言うように職業に対する準備をすることができる。さらに、職業選択の準備として、あるいは、高等教育を受ける者の準備としてどのような技能が必要であるかを見つけ出そうとしている。

1980年代以降、大学に進学しない若者たちが、彼らの意気込みをくじかれるような職業に直面してきていることが報告されている。現在、より多くの職業が何かしらの高等教育を要求している。このことは、バラク・オバマ、アメリカ大統領が、高校卒業後、少なくとも1年間の高等教育をすべての若者が受けるようにと望んだこと (college for all:すべての若者たちに高等教育を) の背景でもある。1973年、10の職業の内7つの職業は、高卒で良かった。しかし、2007年、この数字は、10の職業の内4つに変わった。現状の職業(職種)の半分が今後10年間に、新たな職業に入れ替わると予測されており、それらの職業がすべて、何かしら高等教育(大学はもちろん、短大や専門学校等での訓練を含む)を要求してくることが確実である。同時に、これらの職業はこれまでの職業よりも明らかに高収入が見込まれる。

「1983年の Nation at Risk (危機に立つ国家) 以来、若者たちが大学に進学することにのみ注目してきた。それは、良いことだったが、その中身については、限定的で、あまりにも視野が狭かったのではないかと、ジョージタウン大学教育・労働力研究所のアンソニー・カーニバル所長は言う。あまり早い時期にひとつの職業に決めない方が良い。大学入学後の当初の科目履修は、あまり職業を意識し過ぎない方が良い。すべての若者たちが、将来に役立つ高等教育での学位もしくは証明書を獲得できる道を求めることを、可能にするべきである。中等教育では、多くの若者たちが大学進学か、就職するのか、極めて限定された選択肢の中で育てられている。様々な職業で必要とされる知識や技能の間の関係は、今日、それほど大きな隔たりがあるわけではない。専門職では、むしろ、相互横断的に似通った能力が期待されることも多い。それ故、彼らの学びは、結果的に似通っており、むしろその

関係の繋がりこそが重要である。

アメリカ合衆国教育長官のアーン・ダンカンは、教育者や政策立案者は、必要とされるアカデミックな技能と職業技能を混合して、高等教育および高収入の職業に向けて同時に若者たちを準備すべく、職業技能教育の理想を組み入れるように求める。彼らひとり一人が高等教育と同時に職業生活での成功を思い描けるプログラムを再構築することが重要であり、どちらが欠けても望ましいものではない、と明言する。

2. 教育問題の世界同時多発現象 - 「専門職」の定義の拡大

昨今、小中学生に将来の進路を尋ねると、高等教育機関に進学することを否定する若者たちにどの程度出会うだろうか。アメリカでは中学3年生の90%以上が高等教育機関への進学を将来計画の中に組み込んでいるというデータがある。わが国でも、大多数の若者たちにとって、高等教育への進学は既に現実的な選択肢となっている。

今や、高等教育機関への進学は、先進諸国の多くの若者たちにとって当たり前の未来になりつつある。それは、専門職に対する広義の理解と、そうした専門職の量的拡大とに深く関係している。すなわち、高等教育機関からの卒業証書を有する者に限られているすべての職業は専門職と定義されることである。高等教育を受ける準備ができてい、とは何を意味するのか。高等教育における社会経済的価値の重要性は広く認識されている。高等教育で成功を納めるために必要とされる技術と21世紀の労働市場で期待される技術は、これまで以上に密接な関係に置かれる。アメリカ連邦政府は、2009年に **American Recovery and Reinvestment Act** (アメリカ復興・再投資法)を可決し、すべての大学生にとって適切でかつ信頼できる質の高い評価の実現や高等教育および職業の準備としての厳格な教育水準の達成を確かなものにする法律を施行した。その過程で、高等教育の準備と職業の準備の水準は連動すべきである、と明言された。

しかし、同時に、多くの若者が高等教育に進学する状況で、大学と高校の間に大きな「溝」が存在することが知られるようになった。それが、30年前と異なるのは、この「溝」があることで若者が大学へ進めないのではなく、志願した若者の大半が大学へ入学してしまった後に、溝が発見されることである。大学進学者が少数であった時代には、この「溝」は際立つことはなかった。「溝」は制度疲労の象徴である。しかも、この現象は大学の大衆化が進んだ国であれば、どこでも見られる共通な現象という点で、今や、わが国だけでなく世界の問題である。

3. 新たな高大接続モデルの模索

多数の意見を総合すれば、高校教育のゴールは大学入学後の準備のためだけではない、と言う。仮に、高校教育のゴールが大学進学への準備だとしたら、すべての卒業生は大学に進学する準備を整えることができることにもなる。今や、高校教育の空洞化や高校消失が憂慮される一方で、大学進学を目指す若者たちは、大学進学準備教育に高い関心を示し、

そうしたプログラムに積極的である。しかし、わが国の場合、未だそれは、大学の入試準備のための教育の域を出ていないし、学生募集戦略の域を出ていない。高校教育と大学教育のスタンダード（期待される教育の標準）とベンチマーク（達成すべき教育の最低基準）の共同管理を進め、その有効性と現代中等教育の適切性の検証を行う事は、高大教育接続の新たな展開に重要なヒントをもたらす。

今や、「選抜」は機能しているとは言えないが、「選択」は常になされている。“選択のための支援基盤”の整備が急務である。大学入試で、変化すべきもの、日々改善の努力をし続けなければならないものは何か。高等教育機関は、21世紀に、社会に出るすべて若者たちの準備をする装置となる、との認識が必要である。「繁栄への道(Pathways to Prosperity)」では、「中等教育では、多くの若者たちが大学進学か、就職するのか、極めて限定された選択肢の中で育てられている。様々な職業で必要とされる知識や技能の間の関係は、今日、それほど大きな隔たりがあるわけではない。専門職では、むしろ、相互横断的に似通った能力が期待されることも多い。それ故、彼らの学びは、結果的に似通っており、むしろその関係の繋がりがこそ重要である。」と指摘されている。また当報告書の副題には、「21世紀のために、アメリカの若者たちの教育目標を達成する」と書かれている。いわゆる知識基盤社会人基礎力、つまり GPS (General Purpose Skills)の重要性が指摘されており、それは同時に、21世紀に活躍する大多数の成人に必要とされるスキル (21st Century Skills) である。多国籍企業の人事担当者が採用に際して期待する力として、(1)Read :自分の考えと結びつけながら読む（鵜呑みにしない）ことができる、(2)Question:自分の考えとの違いに対して質問や疑問を適切に設定することができる、(3)Analyze:自分の考えと他の考え・視点と比較して分析することができる、(4)Communicate:比較や分析を通じて行った自分の判断を伝えることができる、が上げられる。

わが国の大学入学では、現在、年齢人口の半数以上が大学・短大に進学する。その中で、学力試験を経て大学に入学する者は50%台に留まり、推薦・AO入試などの非学力型選抜の割合は43%（私立では50.5%）を超える。また、一般入試を課していても、定員充足できていない大学は、4年制私立大で定員割46%であり、実質的に、無選抜入学の様相を呈している。少子化のなかで受験競争の緩和に伴い、競争の弊害を問う声は後退し、いまや学生の学力低下、進学準備不足を憂う声がむしろ大きい。とはいえ、わが国では、未だ、大学受験に対応するカリキュラムの影響を強く受ける高校生は入試の準備はできていても大学教育を受ける準備はできていないと感じる。今や、大学での学びには相応の準備 (College Readiness) が必要である。また、ETS (アメリカのテスト開発機関) の A.E. シュミットは、伝統的な学力検査で測れるもの以外の要因 (独創力、コミュニケーション力、チームワーク、回復力(困難な状況にもうまく適応出来る力: resilience)、企画・組織力、倫理性や誠実性) が、大学での成功には不可欠である、と言う。“大学全入時代”が現実味を増している中で、こうした発言の意味はますます重要性を増している。そこでは、一つの試験に過剰な重きを置く High Stakes 型入試に依存する選抜型進学は徐々に後退し、成熟した

文化的識字力の形成に支えられる教育接続による大学進学が重要性を増し、その場合、“個人の高みを目指す”を支える多様な高大接続の保証が、学校教育システムの有効性への道を後押ししなければならない。例えば、アメリカでは、College Board の Spring Board (6-12年生対象) や ACT の EPAS (Educational Planning and Assessment System (8-12年生対象)等が作られ、4~6年間かけて中等教育から大学教育への有機的接続準備が工夫されている。

わが国の高大接続問題は、多様化(ダイバーシティ)に対応できる新たなプラットフォームを選択する必要に迫られているのである。それは、入学者の選抜(Selection)から入学有資格者の認定(College Eligibility)に移行することを意味しており、入学有資格者認定指標(College Eligibility Index)の開発と導入が急務である。“入学有資格者認定(College Eligibility)”とは、“大学進学の準備ができていない状態”を認定することである。

近年、わが国でも広がりを見せているインターナショナル・バカロレア(IB)は、「プログラムの教育力」を重視している。国際バカロレア資格(International Baccalaureate)は、スイスの財団法人国際バカロレア機構(Organisation du Baccalaureat International)の定める教育課程を修了する(=大学入学資格認定)を得られる資格である。2010年時点で、全世界139カ国の3086校の学校で採用されている。世界の著名な大学を含め、122か国以上、1764の学校で認められている。IB Diploma Programme 修了は、“大学進学準備ができていない状態”を認定している。

現代教育では、入試を筆頭に多くの試験が開発されている。「どんな試験を作るか?」や「測定精度の追求!」も大切だが、まず、「何に使うか?」の視点が重要である。「その試験が誰にとって、何にとって有益なのか?」が前提とならなければならない。今日、個人、機関を含めて、多様な集団のニーズに応えるには、多様な複数の試験の開発が不可欠である。グローバル化時代とは、多様な価値が開花する時代であり、高等教育への進学率の高まりは、「排除(=Selection)の為の選抜型試験から協創(=Collaboration)の為の入学有資格認定型の学習診断テストへ移行する」ことによって後押しされねばならない。その場合、大変ものがかかっている”The” Exam からいわゆるひとつの診断としての”an “Exam へと現実的に展開する。例えば、最近、韓国の大学入試では、英語に関して、資格試験化を模索しており、既に実験中である。

すなわち、「新しい入試」のデザインを考えるに当たっては、High Stakes Test のマイナスの連鎖から抜け出すと言う視点、が大切なのではないか? すなわち、新しい入試の開発が、単なる High Stakes テストの世代交代: 第一世代(共通一次試験)、第二世代(センター試験)、第三世代(PISA型新テスト?)しか意味していないのであれば、時代の期待に答えているとはいえないのではないか? “High Stakes”とは、「大変なものがかかっている」という意味である。一般に、テスト実施者である学校や大学がそのようなテストに基づいて行う学生の振り分けや、卒業資格および入学許可の判定等に利用される。一方、「日々の学習診断」のためのテストは、Low Stakes Test と呼ばれる。テスト理論の権威として知られる

コロラド大学のロバート・リン博士等(1991)の指摘によれば、「High Stakes Test は、その社会的意味故に、教師を学力競争に巻き込み、(テストで高得点を上げるための準備に駆り立てるために)、学生たちの実際の学力を誇張しがちである。そして、基礎技能を軽視し、カリキュラムを意図的にテスト内容に傾斜して構成する傾向が生じる。テストの持つ否定的な側面を回避するには、できうる限り、様々な測定ツールが利用されることが求められる。学力診断はもちろん学生のパフォーマンス評価には、判断基準となる複数の指標が必要であり、複数の学習診断テストの継続的利用が有効である。」

しかし、前出の、シュミット氏が言うように、「GPA とテストスコアだけでは、個々の学習者の大学進学適性はわからない。」という現実とどのように向き合うのか？ 実際、大学生活での成功には社会での成功と同様に多様な要素が含まれている。Low Stakes Test を活用すれば、学習活動がむしろ活発化するのではないかとともに思える。少なくとも、Low Stakes Test は、教授活動に不可欠な効果的なフィードバックによって、選択と決定を可能にする。さらに、様々な Low Stakes Test や GPA 等の学習成果情報の組み合わせによる有資格者認定指標(Eligibility Index)を導入することで、High Stakes Test の過度の弊害を調整することが可能となるのではないかと。

おわりに、「複数の Low Stakes テスト + α (学力外諸要因) > 1つの High Stakes テスト」という公式が成り立つことができるはずである。多様な集団に応じて、複数の Low Stakes テストの開発と実施や、大学入学有資格者認定指標 (College Eligibility Index)の開発と採用、カレッジ・レディネス(College Readiness)の形成プログラムの開発と実施などが選択肢になりうるだろう。

4. 「カレッジ・レディネス」を高める

先に述べた通り、カレッジ・レディネスの形成が求められている。大学では、高校までの学びと比較すると自ら学ぼうとする自主性がより強く求められる。この学びの円滑な移行には、「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「書く」といった学習技術の獲得は必須であるとともに、まず、学習技術の重要性や必要性に気づくことが獲得の第一歩になる。更に望むべくは、学生がこういった学習技術を基に「考えることの大切さ・楽しさ」に目覚め、大学での教育やその後の社会活動に向けて大きく飛躍していくことだ。」と語るのは、朝日新聞社で「e 学び力」という大学一年生向けの学習プログラムの開発を手がける根岸佳代教育プロジェクト担当プロデューサーである。

大学教育を受ける準備ができている、とは何を意味するのか。大学教育における社会経済的価値は良く認識されている。大学で成功を納めるために必要とされる技術と 21 世紀の労働市場で期待される技術は、これまで以上に密接な関係に置かれるようになる。アメリカ連邦政府は、2009 年にアメリカ復興・再投資法(American Recovery and Reinvestment Act)を可決し、障害のある学生や ESL を学習中の学生等も含めて、すべての大学生にとって妥当で信頼のおける質の高い評価の実現や、大学教育はもちろん就業のための準備としての

厳格な水準の実現に向けて前進することをいっそう確かなものとする法律を施行した。その過程で、大学教育のための準備と就業のための準備の水準は連動すべきである、と明言された。また、ETS（アメリカのテスト開発機関）のA・E・シュミット管理統括部長は、伝統的な認知的学力テストで測れるもの以外の要因もまた、大学での学習を成功に導く上で重要である、と言う。もちろん学習者に意欲が在ることを前提としての話だが、具体的には、独創力、コミュニケーション力、チームワーク、困難な状況にもうまく適応出来る力（resilience）、企画・組織力、倫理性、誠実性といった特質を何かしら有していることが重要である、と言う。

学校が断片的なカリキュラムに即して授業を行っており、結果として文化リテラシーがやせ細って行く状況を憂いたのはE・D・ハーシュであった。彼は、『教養が、国をつくる（*Cultural Literacy*）』（1987）の中で、学校教育システムが目指すべき目標としての文化リテラシー形成の重要性を説き、文化リテラシーがあるというのは、現代世界が繁栄する上で必要な基本情報を有していることであるから、幅広く共有された情報をもっと重視すべきである、と主張した。しかし、実際、今日、学力＝文化リテラシーという公式はなかなか成り立ち難いようである。

わが国では、今日、大学受験に寄り添うカリキュラムの影響を強く受ける高校生は入試の準備はできていても大学教育を受ける準備はできていないと感じている。学力低下論争は熱いが、憂慮すべきはむしろハーシュが指摘する文化リテラシー教育の後退であり、両者の「溝(Chasm)」の深まりである。今や大学での学びには相応の準備が必要であることは周知の事実である。こうした議論は、「ユニバーサル化した段階の」、「志願者全入時代の」と形容される大学教育が現実味を帯びて来た昨今、「すべての子どもたちに大学教育を（Higher Education for All）」の実現化の過程で、ますます熱を帯びている。そこでは、伝統的入学試験に依存する選抜型進学は徐々に後退し、成熟したリテラシーの形成と密接に関わる教育接続による進学が主流となるべきである。そこでは、高大の教育接続の多様性を如何に保証できるかが学校教育システムの有効性を左右することになる。全体の底上げはもちろん大切だが、中でも、「個人の多様な高みをめざす」を支援できる仕組みを学校教育システムの中に如何に内包できるかがますます重要となってきた。

最近のアメリカでの高大接続研究の多くは、高校生が大学入学以前に獲得する学習技術と大学教員が大学での学びに必要であると学生たちに期待する学習技術との間の違いが大きいこと、を明らかにしている。アメリカでは、Reading（読むこと）、Writing（書くこと）、Thinking（考えること）、Listening（聴くこと）、そして、Grit（不屈の精神、気概）、大学教育に対する姿勢、といった諸要素が取り上げられることが多い。大学入学判定に利用されるSATやACTのような標準テストで測られる読解力は、大学における最も基本的な学習技術である。学生は、広範囲の専門分野に渡って膨大な資料を読むことが要求される。そして、彼らは、資料と格闘し理解しかつ思考を深めなければならない。「読むこと」は、大学のあらゆる分野において、成功する基本的な学習技術であるが、成功のための必要条件であって、

十分条件ではない。書く力、考える力、聴く力、いずれも大切な力であるが、前述の Grit (不屈の精神、気概)が極めて重要な特質である、と言う。グリットの重要性を説く研究者たちは、この用語に、自己訓練、粘り強さ、熱意の意味を含める。アメリカの若者たちの中で、学業未達成者は、不適切な教師、つまらない教科書、大人数のクラスを非難する。しかし、研究者たちは、彼らの知的な可能性を失墜させる別の理由を提示する。それは、自己訓練の失敗である。アメリカの子どもたちの多くは、長期的な利益のために短期的な快楽を犠牲にできるか、と言う選択で困難を抱えている。自己訓練プログラムは、学業達成を成し遂げる上で、重要である。そして、大学に通う機会は、予測ができないほどの無数の価値との出会いの良き契機であるために、大学教育を受けることへの姿勢も重要である。

カレッジボードは、長年、カレッジ・レディネスに影響する諸要素を特定する研究を実施してきており、大学での成功予測を可能にする新しい因子の検討を行ってきた。その成果として、テストの得点や高校の成績と言った所謂アカデミック因子については、粘り強さや卒業との関連を認識しつつ、興味・関心の所産との強い関係が認められている。同時に、高校時代のカリキュラムの厳格さが単なるテスト得点や成績を超えて、大学での成功を予測するのに有効であることが認められている。カレッジボードの副理事長で研究事業の統括責任者である W・カマラは、こうした認知的な能力や到達度がカレッジ・レディネスの基本的な尺度であるとしながらも、大学生の学業生活での成功の一部分しか説明できない、と指摘する。そして、十分な説明に至るには、非認知的な能力と言われる、知的好奇心、学習技術 (スタディスキル)、自己有用性意識、メタ認知的スキル、等を加える必要がある、と言う。

われわれが、今、真に直面している課題は、入学者特定のための入試選抜の精度を如何に高めるかを考えることではなく、大学進学希望者の誰もが自らの大学での成功をそれぞれの目標に照らして予測できる高大接続の仕組みの創出であり、そのためには、大学教育の準備とは何かに改めて向き合い、接続力としてカレッジ・レディネスを育む学習プログラムの開発が不可欠である。

引用・参考文献

- Camara, W. J., & Schmidt, A. E., 1999, "Group differences in standardized testing and social stratification". (College Board Rep. No. 99-5), College Board
- R. L. Linn, 1991, "Effects of High-Stakes Educational Testing on Instruction and Achievement", symposium presented at the annual meeting of the American Educational Research Association and the National Council on Measurement in Education
- WC Symonds, 2011, "Pathways to Prosperity", Harvard Graduate School of Education E.D. Hirsch, 2007, "Cultural Literacy: What Every American Needs to Know", Vintage; 1st Vintage Books ed.

ASPIRE の活動におけるジェンダー問題を考える教育プログラムの 開発とその効果の検討

桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群助教
山崎慎一

はじめに

本研究報告は、国連関連の学生団体である UNAI/ASPIRE (United Nations Academic Impact/Action by Students to Promote Innovation and Reform through Education, 国連アカデミックインパクト/アスパイアー、以下 ASPIRE) の日本版である ASPIRE Japan とその韓国版である ASPIRE Korea の協働学習活動について考察したものである。2019年2月7～9日にかけて行われた ASPIRE Japan/Korea Goodwill Session (以下、セッション) を行った。今回のセッションでは、ASPIRE Japan に所属する大学ごとに研究発表とディスカッショントピックの提示を行った。ASPIRE Japan に所属する桜美林大学の学生 (ASPIRE Obirin) は、Sustainable Development Goals (SDGs) のゴール10「人や国の不平等をなくそう」およびゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」に関する問題提起と解決策の検討を行った。

具体的には、韓国において2016年に出版されたベストセラーであり、2018年に日本でも翻訳版が出版された「82年生まれ、キム・ジョン」(著者：チョ・ナムジュ、訳者：齋藤真理子、筑摩書房)の考察と日本人から見た論点の問題提起である。キム・ジョンとは、1982年に韓国で生まれた女性に最も多い名前であり、一般的な女性のライフサイクルやライフイベントを描く中で、韓国社会の持つ男尊女卑の問題点を指摘しているものである。ASPIRE Obirin では、それぞれの学生が本書を読み、問題意識や疑問を持った点をまとめ、日本人から見た考察を試み、当日のディスカッショントピックを提示した。本書を選択した理由は、女性の権利の向上や男女差別といったいわゆるフェミニズム的な視点ではなく、「日本とは違う韓国の日常社会を見て考える」ための題材としたためである。男女の二項対立で議論するのではなく、その社会に存在する文化や常識をどのようにより良いものに変えていくのか、あるいはどうやってその社会をよりよく発展させていくのかという問いへの検討を目的として設定した。

研究方法

本報告においては、今回のセッションの中で実施した女性の権利や人権といった問題について学んだり考えたりするプログラムが、学生にどのような影響を与えるかを明らかにしたいと考えている。そのため、ASPIRE Obirin の企画に先立ち、女性の人権問題に関する

るオンライン調査をセッション参加者に対して実施した (表 1)。なお、調査はセッションの共通言語としている英語で作成した。

表1:回答者の属性(N=28)

性別		年齢		国籍	
女性	男性	19-21	22歳以上	日本	韓国
20	8	18	10	14	14

本セッションの参加者は、全てが ASPIRE Japan もしくは ASPIRE Korea に所属する大学生である。ASPIRE は国連関連の学生団体であることから、国際交流や国際問題について、一定程度の関心を有するグループであると言える。性別の内訳は、女性が 20 名、男性は 8 名であった。年齢は大半が 19-21 歳であり、国籍については各国それぞれ 14 名となっている。

研究結果

続いて、以下に、男女の意識について尋ねた 4 つの質問項目「社会における女性差別の有無がどの程度あるか」「性別による役割がどの程度必要か」「どの程度男女平等賃金であるべきか」「女性の人権への関心がどの程度あるか」に関し、日韓比較 (表 2)、年齢による比較 (表 3)、女性の人権に関する学習経験の有無による比較 (表 4)、性別による比較 (表 5) からそれぞれ考察する。なお、これらの質問はいずれも「まったく思わない」から「とても思う」の 4 件法で回答されている。

表2:男女差の意識に関する日韓比較

	日本			韓国			t値	有意差
	n	M	SD	n	M	SD		
女性差別の有無	13	2.08	0.95	12	2.42	0.67	-1.02	n.s.
性別による役割	12	2.42	0.90	12	2.00	0.95	1.10	n.s.
男女平等賃金	12	2.92	1.16	12	3.17	0.72	-0.63	n.s.
女性の人権への関心	13	3.08	0.86	13	3.15	0.69	-0.25	n.s.

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$ n.s.=有意差なし

1)1=まったく思わない、2=あまり思わない、3=少し思う、4=とても思う

表 2 は、男女差の意識について、日韓の学生間の比較を行ったものである。いずれの項目においても有意差は見られず、国別の枠組みにおける差は確認されなかった。ASPIRE Obirin の考察した図書「82 年生まれ、キム・ジヨン」を読んだ日本人学生から、かなりの部分においては日本と似ている、あるいは少し前の日本と似ているといった意見が散見されたことから、男女差を取り巻く社会環境には相似点が多いため、国別の差がみられなかったと推測される。

表3: 年齢による男女差の意識についての比較

	19-21歳			21歳以上			t値	有意差
	n	M	SD	n	M	SD		
女性差別の有無	17	1.88	0.70	8	3.00	0.53	-4.00	**
性別による役割	16	2.31	0.87	8	2.00	1.07	0.77	n.s.
男女平等賃金	15	2.67	0.98	9	3.67	0.50	-2.84	**
女性の人権への関心	16	3.06	0.85	10	3.20	0.63	-0.44	n.s.

* $p < .05$ ** $p < .01$ n.s.=有意差なし

1)1=まったく思わない、2=あまり思わない、3=少し思う、4=とても思う

年齢による男女差の意識については、「女性差別の有無」と「男女平等賃金」については有意差がみられた。「女性差別の有無」に関する平均値の差はおよそ 1.1、「男女平等賃金」の平均値の差は 1.0 であり、21 歳以上の方がこの要因は、主に就職活動を通じて産業社会との接点が拡大し、性別による差を感じる機会が多くなったことがあると考えられる。

表4: 女性の人権に関する学習経験の有無による男女差の意識についての比較

	学習経験あり			学習経験なし			t値	有意差
	n	M	SD	n	M	SD		
女性差別の有無	15	2.33	0.90	10	2.10	0.74	0.68	n.s.
性別による役割	14	2.36	1.01	10	2.00	0.82	0.92	n.s.
男女平等賃金	14	3.14	0.86	10	2.90	1.10	0.61	n.s.
女性の人権への関心	15	3.40	0.51	11	2.73	0.90	2.42	*

* $p < .05$ ** $p < .01$ n.s.=有意差なし

1)1=まったく思わない、2=あまり思わない、3=少し思う、4=とても思う

表 4 は、「女性の人権に関する学習経験の有無」による男女差の意識について回答した結果である。本項目における学習経験は、主として大学における学習経験を前提として質問したものである。いずれの項目においても、学習経験を有するグループの方が平均値は高いが、有意差がみられた項目は「女性の人権への関心」のみであった。つまり、今回のセッションで行ったような、女性の人権やジェンダー問題を学習する機会があれば、それらへの関心が高まるということが示唆されていると言える。

	女性			男性			t値	有意差
	n	M	SD	n	M	SD		
女性差別の有無	18	2.17	0.79	7	2.43	0.98	-0.70	n.s.
性別による役割	18	2.22	1.00	6	2.17	0.75	0.12	n.s.
男女平等賃金	19	3.05	1.03	5	3.00	0.71	0.11	n.s.
女性の人権への関心	19	3.21	0.79	7	2.86	0.69	1.05	*

* $p < .05$ ** $p < .01$ n.s.=有意差なし

1)1=まったく思わない、2=あまり思わない、3=少し思う、4=とても思う

最後は、性別による男女差の意識について示した表 5 である。今回のセッション参加者自体に男女差の偏りがあるため、比較としては不十分であるが、「女性の人権への関心」については、当事者である女性の方が高い関心を持っている傾向にある。また、有意差は見られないものの、「女性差別の有無」について、男性の方があると感じているものが増えている。

考察

男女平等の賃金や女性差別への意識は、年齢が高いほど強く意識される傾向にあった。これは、学生自身が実際に産業社会と接する機会がはじまることによって生じていると思われる。国別や性別の考察からは特に有意差は見られなかったため、性別によらず、両国の共通課題として、就職活動や産業社会で働くうえで、賃金をはじめとする差があるという認識があると言える。日韓ともに、就職活動中のセクハラをはじめとするハラスメントは問題になっており、また日本についていえば、女性の国会議員や役員等が極めて少ないという問題も有している。政策的にも女性の社会進出ということが盛んに言われているが、当事者をはじめとする学生の現状認識は厳しいものになっている。

女性の人権問題等への関心を高める上では、関連する学習経験に効果があることも明らかになった。学習経験の有無によって、平均値は 0.7 の差があり、その経験の意味は大きいと言える。実際、当日のセッションの議論の中でも、現状認識はそれぞれ異なっており、性別ごとの違いのみならず、同性の中でも様々な意見や考えがあり、一様に良し悪しを判断するのは難しい状況も見られた。ただし、ASPIRE Obirin のメンバーは、「82 年生まれ、キム・ジョン」に見られるような韓国の女性の人権の問題は、日本よりも厳しい環境にあり、受け入れがたい度合いのものが多かったという指摘もあった。

おわりに

本研究報告は、ASPIRE Japan を通じた教育活動の成果を測った結果を示したものである。女性の人権への関心を高める上で、関連する問題の学習をすることが有効であることはすでに示した通りである。したがって、日韓双方の学生にとって、今回の教育活動は有意なものであったと推測できる。特に、ASPIRE Japan と ASPIRE Korea によるセッションは度々行われており、これまでも信頼関係を重ねながら丁寧に、領土問題や歴史認識といったセンシティブな話題も扱ってきた。今回のセッションにおいても、お互い第二言語で議論をしていることもあり、所々意思疎通がうまくいかず、意図と異なる形で誤解を招きかけた例もあったが、全体としては問題なく終了した。

ASPIRE Japan も ASPIRE Korea の学生も、自分達の状況を客観的に捉える機会となり、女性差別、あるいは性別による差別の所在を知ることが出来ていた。特に、女性の社会的立場づけや役割は、時に社会的・文化的側面を強く有しており、その良し悪しを判断することは容易ではない。そのうえで、他国の学生から直接意見を聞き、考える機会を得ることは、

自分達の社会をどのように築いていくのかを考えるきっかけになりうるものである。

言うまでもなく、本調査はあくまでも ASPIRE という国際系学生団体の枠組みの中で行ったものであるため、女性の人権問題等への関心を高める手法として、関連する教育活動が重要かどうかを明らかにするには、まだ多くの研究の余地が残されている。今回の調査は、30名程度を対象としたもので、さらにその男女差や年齢の分布も均衡がとれているとは言えない。また、女性の人権問題等に関する学習経験の有無のみを聞いており、その内容については確認をしていない。より詳細な調査や同様の調査を全く異なる学生層に実施するなど、更なる研究が求められている。

今回のセッション、そして ASPIRE Obirin 内における準備の中でも「男女差別とは何か」といった点は、極めて議論が多いテーマであり、個人差がみられるものであった。例えば、人によってハラスメントと感知することが異なっており、同性の中でも同じ行為に対する評価が異なるケースも多々見られた。そのため、明確な答えを示すというのは難しいが、多くの複雑な問題があるということを知り、問題を考える機会を作ること自体には意味があると言えるだろう。社会がグローバル化し、多様な価値観が社会に生まれ、それは新たな創造も破壊も生み出している。性別についても、単純な男女という枠だけでなく、現在は LGBTQ と言われるような新たな価値観が生まれている。今後、男女、さらにはそれ以外の性別や人種といった様々なファクターが社会に根付き、その中で今回のセッションで議論したような内容を考える意義は、学生にとって極めて大きいのではないだろうか。ASPIRE の枠組みにおいては、今後もこうした答えのない課題に挑んでいく教育プログラムを作っていきたいと考えている。

参考文献

チョ・ナムジュ (訳者：齋藤真理子), 2018, 「82年生まれ、キム・ジョン」, 筑摩書房

UNAI ASPIRE Japan 略史 — 発足から現在まで —

桜美林大学 総合研究機構 助手
小笠原 惇也

1. はじめに

二宮尊徳が残したとされる言葉に「大事をなさんと欲せば、小さな事を、怠らず勤むべし、小積りて大となればなり、凡小人の常、大なる事を欲して、小さな事を怠り、出来難き事を憂ひて、出来易き事を勤めず、夫故、終に大なる事をなす事あたはず、夫大は小を積んで大となる事を知らぬ故なり、譬ば百萬石の米と雖も、粒の大なるにあらず、萬町の田を耕すも、其業は一畝づゝの功にあり、千里の道も一歩づゝ歩みて至る、山を作るも一と簣の土よりなる事を明かに辨へて、勵精小さな事を勤めば、大なる事必なるべし、小さな事を忽にする者、大なる事は必出来ぬものなり」(福住 (1941: 29)) (文中のルビは著者あるいは校訂者による)がある。いわゆる「積小為大 (せきしょういだい)」である。

題目の“UNAI ASPIRE Japan”とは、国連と世界の高等教育機関の連携促進等とその主たる目的とする国連広報局のプログラム“UNAI (United Nations Academic Impact: 国連アカデミックインパクト)”を母体とした学生組織“UNAI ASPIRE (Action by Students to Promote Innovation and Reform through Education)”の日本支部であり、UNAIが定める教育に係る10原則を推進・実現すべく活動を行っている。同組織は(少なくとも組織としては)未だ「大事を為す」には至らないが、2012年5月の正式発足より約7年が経過しており、その活動実績件数は30を超える。これまでの活動を「小さな事」と言い表しては語弊があるかもしれないが(また当時の学生たち・関係者各位に対して失礼にあたるかもしれないが)、当代の学生たちが規模や事の大小に囚われず一つ一つの活動に全力を尽くし、“Action by Students”を「積み重ねてきた」事に異論は無いだらう。

拙稿は、このUNAI ASPIRE Japanの今日に至るまでの活動・出来事を極力網羅的に取上げ、振り返りつつ、「略史」として記録に残すものである。拙稿がUNAI ASPIREやその他の学生組織に所属する / 携わる方々の新たな展望を拓く一助になるとすれば、これに勝る喜びはない。

なお、筆者は: 2012年5月の発足から間もなく~2016年3月までは学生メンバーとして、2016年4月~2019年3月まで(2018年度を以って桜美林大学を退職)はコーディネーターとして、計約7年間にわたり本組織に所属してきた背景があり、拙稿執筆にあたっては、当時の作成・共有資料、写真、動画、関係大学の学内記事、国内外のウェブサイト、Facebook MessengerやLINEといったコミュニケーションツール・アプリの履歴、過去の気象情報などといったものを調査・情報収集し、記憶を辿った。

1-1. UNAI について

UNAI ASPIRE Japan のこれまでの歩みを振り返る前に、基本情報となる「UNAI 及び UNAI ASPIRE とは何か」について、今一步、詳細を説明しておく必要があるだろう。

UNAI とは、国連と世界の高等教育機関の連携促進等を目的として 2010 年に発足した国連広報局のプログラムである。2018 年 11 月 19 日現在、世界 130 か国以上から約 1,300 もの大学・学術機関が UNAI に加盟 [UNAI: Member List Nov. 2018] しており、UNAI が定める「高等教育に必要とされるスキル、知識を習得する機会を全ての人に提供する」、「世界各国の高等教育制度において、能力を育成する」といった教育に係わる 10 原則の実現に向け、様々な取り組みを行っている [[UNAI: About UNAI]; [UNAI 日本: アカデミック・インパクトとは]]。なお、本学、桜美林大学は原則 1「国連憲章の原則を推進し、実現する」の“Hub University (世界の拠点校)”を担っている。

1-2. UNAI ASPIRE について

UNAI ASPIRE は上記 UNAI を母体とする国際的な学生組織であり、各国の支部において UNAI10 原則を学生の立場から推進・実現すべく諸種の活動を行っている [UNAI: ASPIRE]。日本支部である UNAI ASPIRE Japan (桜美林大学、麗澤大学、創価大学に設置されている各支部によって構成されている)も例に漏れず、UNAI10 原則に主眼を置きつつ、(特に近年では) SDGs (が対象とする課題)をはじめとする世界的な諸課題に関する調査・学習・発表・議論、有識者を招いての特別講義、国内外で開催される国際会議での学生セッションの企画・運営等々、多種多様な活動を行っている。

1-3. 拙稿で取り上げる活動・出来事について

以降、約 7 年間にわたり積み重ねてきた UNAI ASPIRE Japan の活動並びに出来事(組織としての life event のようなもの)を「略史」として時系列順に記述していくが、拙稿では紙幅の関係上、①UNAI ASPIRE Japan としての活動・出来事のみを取上げ、(UNAI ASPIRE Japan を構成する)各支部単位での活動・出来事については記述しないこと、②各回の週例・月例合同ミーティングなど、それらが「UNAI ASPIRE Japan としての活動・出来事」であっても一部のものについては割愛すること、③取上げる活動・出来事について委細を記述することはできず、あくまでも概観していくことになることを了承されたい。

2. UNAI ASPIRE Japan 略史

① The 1st UNAI ASPIRE Association Forum への参加

- ・日 時: 2012年1月16日(月)～18日(水)
- ・会 場: Handong Global University (韓国・浦項)
- ・参加者: 韓国国内 20 大学の学生たち並びに世界各国 11 大学の学生たち (+教職員数名)
- ・概 要: 2012年1月16日～18日、韓国の Handong Global University を会場に The 1st UNAI ASPIRE Association Forum が開催され、桜美林大学からも(筆者の先輩にあたる)学生1名が参加する(本イベント開催時点では UNAI ASPIRE Japan は正式に発足していない)。フォーラムでは、“Aspire to Inspire before you Expire” というテーマのもと、主に後発開発国の援助に携わる有識者などが特別講義、プレゼンテーションを行い、参加学生たちはそれらを受けての議論を行っている。本イベントの詳細は、Handong Global University の学内記事で確認することができる([HGU: The 1st UNAI ASPIRE Association Forum] を参照のこと)。以前は本学のニュースページにも記事が掲載されていたが、ウェブサイトの形式が刷新されて以降、2013年度以前の過去の記事が閲覧出来なくなっている(2014年度以降の過去記事はキーワードを入力し検索すれば閲覧できるが、いくつかの記事が発見できなくなっている)。なお、YouTube にはフォーラムの様子を確認できる動画がアップロードされている([aspireungyung: YouTube: Introduction of UNAI ASPIRE] を参照のこと)。

② UNAI ASPIRE Japan の正式発足

- ・日 時: 2012年5月
- ・場 所: 桜美林大学(日本・東京)
- ・参加者: ー
- ・概 要: 2012年5月、桜美林大学内で UNAI ASPIRE Japan が正式に発足する。発足当時のメンバー数は学部生3名(それから間もなく、当時学部生の筆者が加わり4名となる)であり、これに教員2名がコーディネーターとして携わる。所属人数は少なかったものの、週例あるいは月例でのミーティングを開始し、国連、UNAI、UNAI ASPIRE、いわゆる“Global Issues”等々について調査・学習・議論を行うほか、UNAI ASPIRE Japan の方針などについても協議。後述の通り、他大学にも支部が設立され、外部からのオファーが増えていくと、月例合同ミーティン

グでの議題は専ら「イベントに向けた準備」となっていく。

なお、当初は桜美林大学内に発足した UNAI ASPIRE が日本唯一の支部であったため、同支部は UNAI ASPIRE Japan と同義であった。その後、後述の通り日本国内の他大学にも支部が発足し、桜美林大学の UNAI ASPIRE は自らを UNAI ASPIRE 桜美林 (英名: UNAI ASPIRE J.F.Oberlin) と名乗り、UNAI ASPIRE Japan という名称は日本国内の各支部が協働する際に用いられるようになった。

③ 第1回 UNAI ASPIRE Japan 研修会の実施

- ・ 日 時: 2012年8月25日(土)～26日(日)
- ・ 会 場: 桜美林大学 多摩アカデミーヒルズ (日本・東京)
- ・ 参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー3名 (+コーディネーター1名)
- ・ 概 要: 2012年8月25日～26日、桜美林大学の多摩アカデミーヒルズにて「第1回 UNAI ASPIRE Japan 研修会」を実施し、UNAI ASPIRE Japan のコンセプトや方針、総則・会則などを協議・作成・明文化するほか、翌月に控えた UNAI ASPIRE Korea への訪問に向け、会合用の議題・質問事項の作成などを行う。



図1: 研修会の風景



図2: 研修会の風景

④ UNAI ASPIRE Japan 初の訪韓・UNAI ASPIRE Korea との交流の始まり

- ・日 時: 2012年9月16日(日)～18日(火)
- ・会 場: Handong Global University (韓国・浦項)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan 並びに UNAI ASPIRE Korea メンバー計約30名ほど (+ 日本側コーディネーター2名)
- ・概 要: UNAI や UNAI ASPIRE Korea の組織形態・活動・課題などについて話を聞くため、2012年9月16日～18日、UNAI ASPIRE Korea の事務局が設置されている Handong Global University を訪問する (UNAI ASPIRE Korea は UNAI ASPIRE Japan よりも1年ほど早く発足し、既に精力的な活動を展開していた。訪問に向けては、日本側からコンタクトを取った)。滞在中は、副学長を含む同大学の教職員との面会、UNAI ASPIRE Japan の紹介、UNAI ASPIRE Korea メンバーや Handong Global University の学部生・院生との学生間国際交流や Global Issues 等々に関する議論などを行う。

この訪問以来、日韓 UNAI ASPIRE は毎年度お互いの国を往来して種々のイベントを開催し、相互に交流・学習しながらその友好・協力関係を発展・深化させていく。

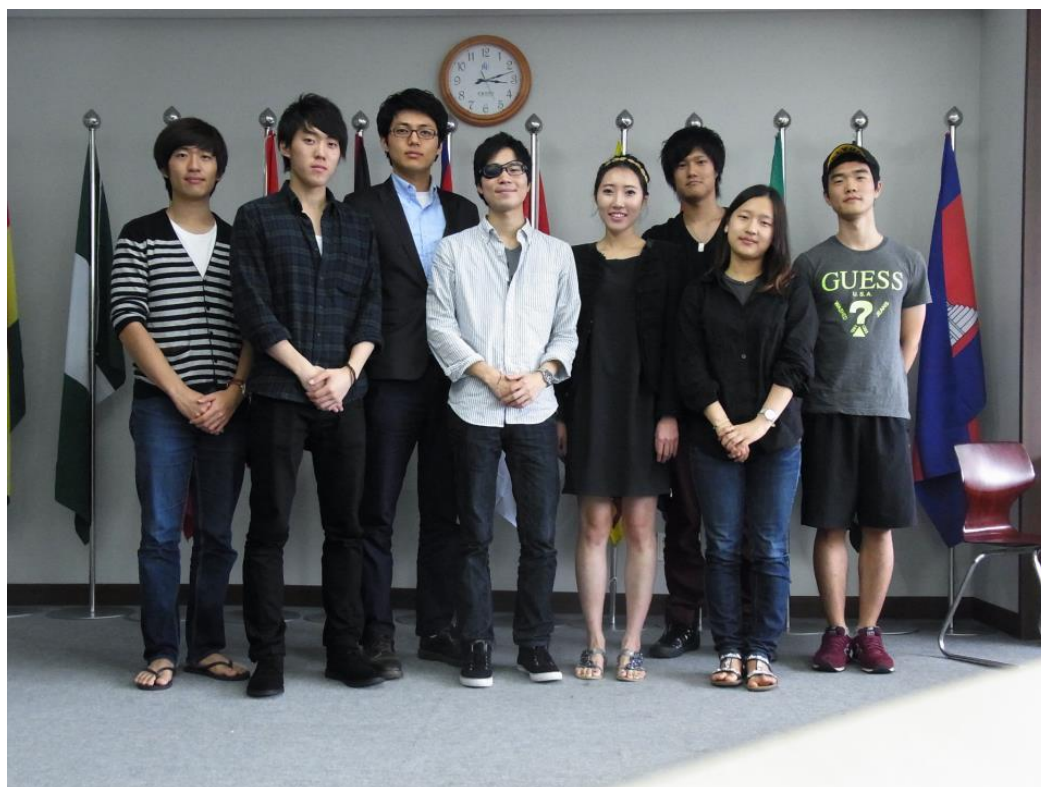


図3: UNAI ASPIRE Japan 並びに UNAI ASPIRE Korea 幹部学生



図 4: 議論の風景



図 5: 議論を終えて

⑤ UNAI ASPIRE Japan 活動報告会の開催

- ・日 時: 2012年12月19日(水)、21日(金)
- ・会 場: 桜美林大学 町田キャンパス (日本・東京)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー4名 (+コーディネーター1名)、報告会に参加した学生・教職員
- ・概 要: 2012年12月19日並びに21日、桜美林大学 町田キャンパスにて「UNAI ASPIRE Japan 活動報告会」を開催し、UNAI、UNAI ASPIRE、そして UNAI ASPIRE Japan とそのコンセプトやこれまでの活動を紹介するプレゼンテーションを行う。前述した通り、当時の様子を記した学内記事を確認することは出来ないが、報告会開催を周知する当時の記事の英語版は現在も閲覧できる ([桜美林: ASPIRE Japan to present report on December 19 and 21] を参照のこと)。

⑥ UNAI ASPIRE Korea 初の訪日

- ・日 時: 2013年2月4日(月)～7日(木)
- ・会 場: 桜美林大学 町田キャンパス並びに多摩アカデミーヒルズ (日本・東京)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー3名 (+コーディネーター1名)、UNAI ASPIRE Korea メンバー4名、理事長・学長を含む桜美林大学の教職員
- ・概 要: 2013年2月4日～7日、UNAI ASPIRE Korea の代表・副代表を含むメンバー4名が桜美林大学を訪問し、桜美林学園佐藤東洋士理事長・桜美林大学三谷高康学長を含む本学教職員との面会・日韓 UNAI ASPIRE のこれまでの活動についての報告を行う。また、日韓 UNAI ASPIRE の引き続く交流・協力関係の維持を確認するとともに、今後の協働活動などについて議論を行う。



図 6: 議論を終えて



図 7: UNAI ASPIRE Japan 並びに UNAI ASPIRE Korea 代表団の面々

⑦ ヤン・エリアソン国連副事務総長と学生達とのダイアログへの参加

- ・日 時: 2013年2月28日(木)
- ・会 場: 明治大学 駿河台キャンパス (日本・東京)
- ・参加者: ヤン・エリアソン国連副事務総長、UNAI ASPIRE Japan メンバー1名 (+コーディネーター1名)、本イベントへの参加者 (UNAI メンバー校の学生や明治大学の教職員)
- ・概 要: 2013年2月28日、明治大学が主催する「ヤン・エリアソン国連副事務総長と学生達とのダイアログ」に参加し、ヤン・エリアソン国連副事務総長とのダイアログの中で質問などを行う。本イベントは UNAI に加盟する大学の学生たちを対象としたものであり、副事務総長からの特別講演とともに、同氏と参加学生間のダイアログが行われる。

本イベントの詳細は、明治大学の学内記事で確認することができる ([明治大学: ヤン・エリアソン国連副事務総長と学生達とのダイアログ] を参照のこと)。

⑧ 国連本部への訪問・International Day of Happiness 関連イベントへの参加

- ・日 時: 2013年3月20日(水)
- ・会 場: 国連本部(アメリカ・ニューヨーク)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー1名(+コーディネーター1名)、UNAIを担当する国連本部の職員。International Day of Happiness 関連イベントへの参加者
- ・概 要: 2013年3月20日、国連本部を訪問し、UNAIを担当する国連職員の方々と UNAI ASPIRE Japan の今後の活動や展望について議論を行う。また、同日開催されていた International Day of Happiness 関連イベントにも参加する。

International Day of Happiness 関連イベントの詳細は、UNAI のニュースレターで確認することができる ([UN: UNAI Newsletter (April 2013)] を参照のこと)。

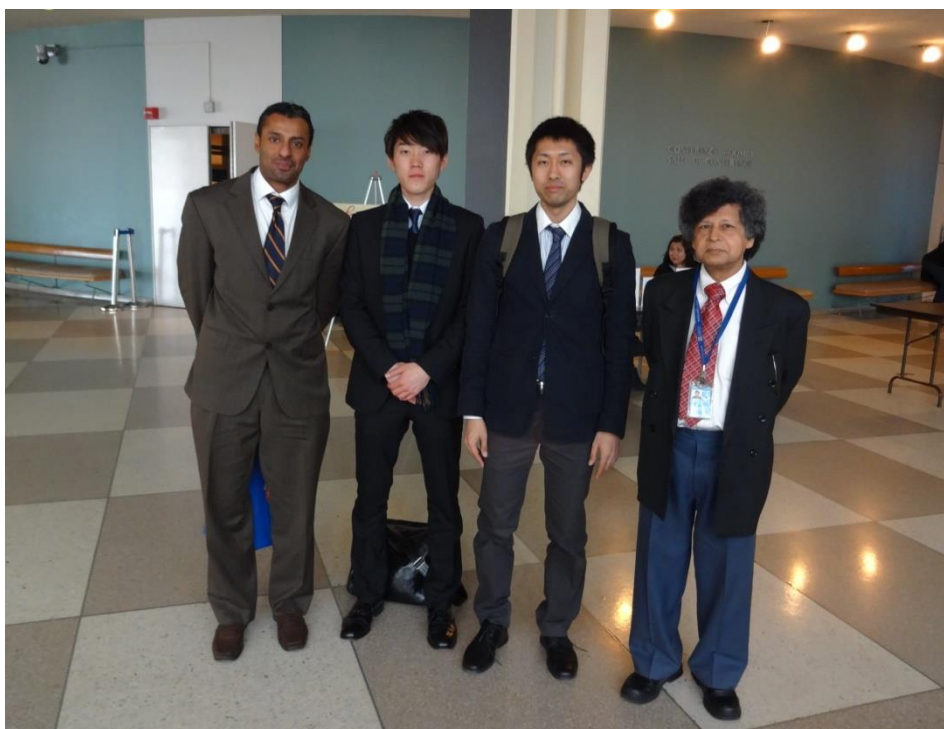


図 8: UNAI 担当の国連職員の方々と UNAI ASPIRE Japan メンバー・コーディネーター

⑨ 南山大学への訪問・日本国内の UNAI 加盟校への訪問を開始

- ・日 時: 2013年3月28日(木)
- ・会 場: 南山大学(日本・名古屋)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー1名(+コーディネーター1名)、南山大学学長並びに副学長
- ・概 要: 2013年3月28日、南山大学を訪問し、ミカエル・カルマノ学長、並びに UNAI を担当する木下登副学長と会談を行うとともに、UNAI ASPIRE の支部設置を呼びかける。これを皮切りに、日本国内の UNAI 加盟校への訪問・UNAI ASPIRE 支部設置の推奨を開始する。

⑩ The 1st UNAI Collegian Research Paper Competition & Global Development Conference への参加と論文発表・UNAI ASPIRE Korea 主催の学生セッション参加

- ・日 時: 2013年8月23日(金)、24日(土)
- ・会 場: 63 Convention Center 並びにソウル市内の貸し会議室(韓国・ソウル)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー4名(+コーディネーター1名)、UNAI ASPIRE Korea メンバー数十名、The 1st UNAI Collegian Research Paper Competition & Global Development Conference への参加者(各国の学生や国連職員、韓国の関係閣僚、メディアなど)数百名
- ・概 要: 2013年8月23日、63 Convention Center にて開催された UNAI Korea 主催の The 1st UNAI Collegian Research Paper Competition & Global Development Conference に参加し、当時の UNAI ASPIRE Japan メンバーで共同執筆した論文の発表プレゼンテーションを行う。論文では、MDGs のゴール 2 “Achieving Universal Primary Education” の成果や残る課題を評価するとともに、NGO による Non-Formal Education の事例などを挙げつつ、Post-MDGs (後に SDGs という名称で決定) への示唆を行う。

イベントの翌日には、UNAI ASPIRE Korea が主催した学生セッション(参加者は日韓 UNAI ASPIRE メンバーや、Handong Global University への留学生など計約 30 名。ソウル市内の貸し会議室にて)に参加し、UNAI ASPIRE Japan の紹介プレゼンテーションや、MDGs の達成に向けた具体的な施策(学生にも出来るもの)の案出・発表などを行う(各グループが1つのゴールを選ぶが、発表ではその選択理由、施策の理念なども発表する)。

前述の通り、当時の様子を記した学内記事を確認することは出来ないが、英語版の記事は現在も閲覧できる ([桜美林: The 1st UNAI Collegian Research Paper Competition & Global Development Conference] を参照のこと)。



図 9: UNAI ASPIRE Japan の面々



図 10: 発表を行う UNAI ASPIRE Japan

⑪ UNAI ASPIRE Japan の支部の発足

- ・日 時: 2013年～2014年 (南山大学への訪問頃から IAUP 2014 Yokohama まで)
- ・会 場: ー
- ・参加者: ー
- ・概 要: 後述の “IAUP (International Association of University Presidents: 世界大学総長協会) 2014 Yokohama” の学生セッション開催に向け、南山大学、麗澤大学、神田外語大学、創価大学で UNAI ASPIRE Japan の支部が発足し始める。UNAI ASPIRE Japan メンバーは月例合同ミーティングなどで学生セッションに向けた準備を開始する。

⑫ ラムー・ダモダラン氏の桜美林大学訪問・同氏による特別講義とダイアログの開催

- ・日 時: 2013年9月22日 (日)
- ・会 場: 桜美林大学 四谷キャンパス (日本・東京: 千駄ヶ谷への移転前)
- ・参加者: ラムー・ダモダラン氏、UNAI ASPIRE Japan メンバー6名、UNAI 加盟大学の教職員7名 (UNAI ASPIRE Japan コーディネーター1名含む)
- ・概 要: 2013年9月22日、ラムー・ダモダラン氏 (Deputy Director for Partnerships and Public Engagement in the UNDP/UNEP Outreach Division, and Chief of UNAI) が桜美林大学と UNAI ASPIRE Japan のもとを訪問し、国際連携・協働、グローバル教育、学生・若者の自発的・自律的な取り組み等々の重要性などについて特別講義を行うとともに、UNAI ASPIRE Japan メンバーとのダイアログを実施する。



図 11: 特別講義を行うラムー・ダモダラン氏



図 12: 参加者の面々

⑬ マヘル・ナセル国連広報局アウトリーチ部部長による UNAI のグローバル展開に関する
プレゼンテーションおよび Q&A セッションへの参加

- ・日 時: 2013 年 10 月 18 日 (金)
- ・会 場: 国際連合大学 (日本・東京)
- ・参加者: マヘル・ナセル国連広報局アウトリーチ部部長、UNAI ASPIRE Japan メンバー
1 名、本イベントへの参加者 (UNAI 加盟大学の教職員の方々)
- ・概 要: 2013 年 10 月 18 日、国連広報センター (日本) が主催する「マヘル・ナセル国
連広報局アウトリーチ部部長による UNAI のグローバル展開に関するプレゼン
テーションおよび Q&A セッション」に参加し、桜美林大学の UNAI としての活
動を報告する。

UNAI のウェブサイト (日本版) では、当時のイベント開催案内を確認することが出来る ([UNAI 日本: UNAI グローバル展開に関するセッション] を参照のこと)。

⑭ IAUP 日本委員会 ホスト国としての直前オリエンテーションへの参加と学生セッションの概要説明

- ・日 時: 2014年4月25日(金)
- ・会 場: アルカディア市ヶ谷(日本・東京)
- ・参加者: IAUP 日本委員会委員や IAUP 2014 Yokohama への参加者並びにその関係者など数十名、UNAI ASPIRE Japan メンバー数名(+コーディネーター1名)
- ・概 要: 2014年4月25日、アルカディア市ヶ谷を会場に開催された IAUP 日本委員会 2014 横浜総会「ホスト国としての直前オリエンテーション」に参加し、後述する学生セッション“Voices of the Future”についての説明プレゼンテーションを行う。

⑮ University World News への記事の寄稿

- ・日 時: 2014年6月初旬
- ・会 場: -
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー1名
- ・概 要: UNAI、UNAI ASPIRE、そして UNAI ASPIRE Japan の展望などを紹介する記事“Students – Aspiring for a better world”を UNAI ASPIRE Japan メンバー1名が執筆し University World News に寄稿する。記事の公開日は2014年6月13日。現在も同記事を確認することが出来る([UWN: Students – Aspiring for a better world]を参照のこと)。

⑯ IAUP 2014 Yokohama への参加と The Special Plenary Panel “Voices of the Future”(学生セッション)の開催・毎日新聞への記事の寄稿

- ・日 時: 2014年6月11日(水)～14日(土)
- ・会 場: パシフィコ横浜(日本・横浜)
- ・参加者: IAUP に加盟する総長・学長など数百名のほか、日本の関係閣僚や要人、国連職員、国内外のメディアなど。UNAI ASPIRE Japan メンバー約30名(+コーディネーター1名)、UNAI ASPIRE Korea メンバー1名、各国からの学生セッション参加者約10名

- ・概要: 2013年の夏頃までに、IAUP側から同協会の第17回総会(3年に1度開催される。The 17th Triennial Conference) “IAUP 2014 Yokohama”にて学生セッションを(企画・運営・)開催する旨オファーを受ける。桜美林大学以外の他大学(南山大学、麗澤大学、神田外語大学、創価大学)にUNAI ASPIRE Japanの支部が発足して以降、UNAI ASPIRE Japanメンバーは月例合同ミーティングなどを通して学生セッション開催に向けた準備を進めていく。

2014年6月11日~14日、パシフィコ横浜にて開催されたIAUP 2014 Yokohamaに参加する。会期中は、UNAI ASPIRE Japanメンバーを含めた世界各国の学生たちが一堂に会し、①事前議論として“Global Citizen: What kind of people are they? What kind of things – skills, ability and mind are necessary? How can we develop those elements in Univ.?”並びに“How can students and universities contribute to world peace?”をテーマに議論を行い、最終日のThe Special Plenary Panel “Voices of the Future”では②事前議論を踏まえた学生パネルディスカッションを行うとともに、③IAUP 2014 Yokohamaの参加者である世界各国の大学総長・学長に向け、高等教育の未来に関する提言(Statements)を行う(UNAI ASPIRE Koreaの代表も駆け付け、提言を行う)。

前述の通り、総会当時の様子を記した学内記事を確認することは出来ないが、英語版の記事は現在も閲覧できる([桜美林: participate in IAUP 2014 conference as members of ASPIRE Japan]を参照のこと)。また、UNAI ASPIRE Japanメンバー2名が、本総会での経験や“Voices of the Future”での提言の内容を記した記事を毎日新聞に寄稿している。



図 13: 事前議論の風景



図 14: 事前議論の風景



図 15: パネルディスカッションの風景



図 16: 学生セッション参加者の面々

⑰ The 2nd UNAI Collegian Research Paper Contest & Global Conference への参加と論文発表

- ・日 時: 2014年8月28日(木)
- ・会 場: 63 Convention Center (韓国・ソウル)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー4名 (+コーディネーター1名)、UNAI ASPIRE Korea メンバー数十名、The 2nd UNAI Collegian Research Paper Contest & Global Conference への参加者 (各国の学生や国連職員、韓国の関係閣僚、メディアなど) 数百名
- ・概 要: 2014年8月28日、63 Convention Centerにて開催された UNAI Korea 主催の The 2nd UNAI Collegian Research Paper Contest & Global Conference に参加し、当時の UNAI ASPIRE Japan メンバーで共同執筆した論文の発表プレゼンテーションを行う。論文では、昨年に引き続き教育を取上げ、大学生を交えた教員養成システム構築への示唆を行う。

前述の通り、桜美林大学の学内記事は閲覧できなくなっているが、麗澤大学の学内記事「外国語学部学生が中山学長に国連アカデミックインパクト第2回世界会議の報告」でその概要を確認することが出来る ([麗澤: The 2nd UNAI Collegian Research Paper Contest & Global Conference]を参照のこと)。



図 17: 発表に対する批評に耳を傾ける UNAI ASPIRE Japan



図 18: Honourable mention (特別賞) に選ばれる UNAI ASPIRE Japan

⑱ The 2nd UNAI Seoul Forum への参加とプレゼンテーションの実施・UNAI ASPIRE Korea メンバーとの会合

- ・日 時: 2015年5月20日(水)
- ・会 場: Lotte Hotel Seoul (韓国・ソウル)
- ・参加者: 潘基文国連事務総長を含むフォーラムへの参加者(各国の有識者や国連職員、メディアなど)約100名、UNAI ASPIRE Japan メンバー2名(+コーディネーター1名)、UNAI ASPIRE Korea メンバー数十名
- ・概 要: 2015年5月20日、ソウル市内にて開催された The 2nd UNAI Seoul Forum に参加し、潘基文国連事務総長などもスピーチを行う中、UNAI ASPIRE Japan のコンセプト、日韓 UNAI ASPIRE の協働を含むこれまでの活動や成果、今後の展望などを説明するプレゼンテーションを行う。

本フォーラムや UNAI ASPIRE Japan メンバーによるプレゼンテーションの概要を記した記事「国連アカデミックインパクトのフォーラムで学生が成果発表」を毎日新聞 @大学に寄稿しており、現在も同記事を閲覧することが出来る(毎日

新聞 @大学: 国連アカデミックインパクトのフォーラムで学生が成果発表] を参照のこと)。また、桜美林大学の学内記事「グローバルな試みへと発展する ASPIRE」でも詳細を確認することが出来る ([桜美林: The 2nd UNAI Seoul Forum] を参照のこと)。

フォーラム後には、同会場にて、UNAI ASPIRE Korea のメンバーたちとともに、約1週間後に迫った UNAI ASPIRE Japan & Korea The 1st Goodwill Session、9月開催の The 1st UNAI ASPIRE Global Citizenship Forum などについての打合せを行う。

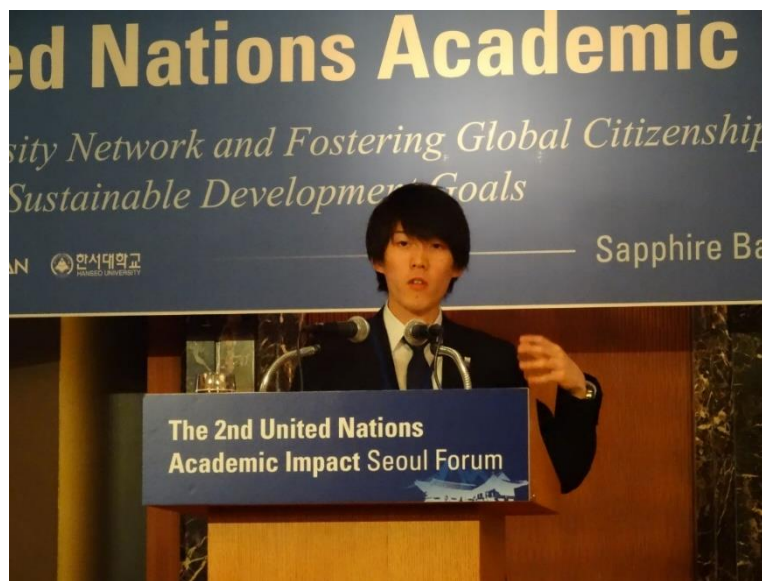


図 19: UNAI ASPIRE Japan 代表の発表



図 20: メインスピーカーと参加学生たち

⑱ UNAI ASPIRE Japan & Korea The 1st Goodwill Session の日韓 UNAI ASPIRE 共同開催

- ・日 時: 2015年5月29日(金)～31日(日)
- ・会 場: 桜美林大学 多摩アカデミーヒルズ (日本・東京)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー約15名 (+コーディネーター1名、佐藤東洋士理事長含む教職員数名)、UNAI ASPIRE Korea メンバー約15名 (+コーディネーター1名) 計約30名
- ・概 要: 2015年5月29日～31日、桜美林大学にて、第1回目となる UNAI ASPIRE Japan & Korea Goodwill Session (セッションの名称について、日本がホストする回は“UNAI ASPIRE Japan”を先頭に、韓国がホストする回は“UNAI ASPIRE Korea”を先頭に記載することが慣例化している) が日韓 UNAI ASPIRE 共同で開催される。

初の相互交流から数年にわたって築き上げてきた友好・協力・信頼関係を基盤として、お互いに、日韓の文化交流の歴史、自国の教育において相手国のことをどのように学ぶか、歴史認識問題など二国間の問題等々について事前調査を踏まえた発表を行う。また、日韓の若者がどのように関係を継続・深化・発展させていけるか議論を行うほか、東京都内へのショートトリップを実施。会期を通して難しいトピックを扱い、相互に学習することで、両者の関係性・相互理解が更に深化していく。Goodwill Session はこれ以降、毎年度最低でも1回は開催され、2019年2月には第5回目を迎えている。

本セッションの詳細は桜美林大学の学内記事「“グローバル”が日常に！ASPIRE Japan・Korea による ASPIRE フォーラムを開催しました」で確認することが出来る ([桜美林: UNAI ASPIRE Japan & Korea The 1st Goodwill Session] を参照のこと)。



図 21: 発表の風景



図 22: 議論の風景



図 23: UNAI ASPIRE Japan & Korea The 1st Goodwill Session 終了を迎えて

㊦ The 1st UNAI ASPIRE Global Citizenship Forum への参加と Forum Session の 日韓 UNAI ASPIRE 共同開催・Cultural Exchange Program への参加

- ・日 時: 2015年9月12日(土)～13(日)
- ・会 場: Handong Global University 並びに慶州(韓国・浦項&慶州)
- ・参加者: フォーラムへの参加者(学生や教職員、NGO等々の機関の代表者など。また、佐藤東洋土理事長を含む本学の教職員、メディアなど)計約100～数百名、UNAI ASPIRE Japan メンバー5名、UNAI ASPIRE Korea メンバー数十名
- ・概 要: オンラインでのミーティングや The 2nd UNAI Seoul Forum 後の打合せのほか、2015年8月18日～19日には UNAI ASPIRE Korea メンバー数名が訪日し、本フォーラムの Forum Session に向けた議論・打合せ・街頭インタビューなどを行う。また、前日の9月11日には、日韓 UNAI ASPIRE 間の相互交流と、翌日に向けたリハーサルや最終準備が行われる。

9月12日、①UNAI ASPIRE Korea 主催の The 1st UNAI ASPIRE Global Citizenship Forum (於: Handong Global University) がメインテーマ“Global Citizenship and Youth’s role as Global Citizens”のもと開催され、これに参加。②Forum Session を日韓 UNAI ASPIRE で共同開催し、両代表が UNAI、UNAI ASPIRE、日韓それぞれの UNAI ASPIRE に関する説明プレゼンテーションを共同で実施する。③UNAI ASPIRE Japan を紹介する Exhibition Booth も展示。

また翌13日には Global Citizenship Forum の Cultural Exchange Program (同じく UNAI ASPIRE Korea 主催)に参加し、日韓 UNAI ASPIRE メンバーや韓国への留学生とともにレクリエーションをしつつ古都・慶州(Cheomseongdae、Gyochon Hanok Village、Gyeongju National Museum 等々)を探索・探訪する。

これらのイベントの詳細は麗澤大学の学内記事「ASPIRE Reitaku のメンバーが The 1st UNAI ASPIRE Global Citizenship Forum に参加」で確認することが出来る([麗澤: The 1st UNAI ASPIRE Global Citizenship Forum]を参照のこと)。



図 24: 日韓 UNAI ASPIRE 両代表による共同プレゼンテーション



図 25: The 1st UNAI ASPIRE Global Citizenship Forum のメインスピーカー等



図 26: Cultural Exchange Program の風景

② UNAI ASPIRE Japan 初の訪墨・CETYS University の学生たちとの交流の始まり

- ・日 時: 2015年9月17日(木)～18(金)
- ・会 場: CETYS University 並びにメヒカリ (メキシコ・メヒカリ)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー3名 (+コーディネーター1名)、CETYS University の学生・教職員ら計約数十名、国連職員など有識者数名
- ・概 要: 2015年夏頃までに、メキシコの CETYS University から、同大学を訪問し UNAI ASPIRE や UNAI ASPIRE Japan に関する説明プレゼンテーションを行う旨オファーを受ける (UNAI ASPIRE の設置を希望している旨も伝えられた)。以降、CETYS University への訪問に向け、7月4日には南山大学でメキシコに対する理解を深めるため特別講義や議論を含む勉強会を行い、8月12日には南山大学伊勢海浜センターで夏合宿 (今後の活動に関する議論も行う) を開催する。

9月17日、CETYS University を訪問し、Student Conference の中で UNAI ASPIRE や UNAI ASPIRE Japan のこれまでの活動・今後の展望などに関する説明プレゼンテーションを行う。また、UNAI ASPIRE Korea (オンライン参加) と CETYS University の学生団体 FORTES もそれぞれの説明プレゼンテーションを実施。同会議の後には FORTES の学生たちとの学生間国際交流を行い、18日にはメヒカリについて学ぶ Study Tour に FORTES の学生数名とともに参加する。

本訪墨の詳細は麗澤大学の学内記事「ASPIRE Mexico 創設の支援に学生が参加」で確認することが出来る ([麗澤: Mexico] を参照のこと)。



図 27: Student Conference 後の交流の風景



図 28: Study Tour in Mexicali を前に

㉒ The 66th UN DPI / NGO Conference への参加・UNAI ASPIRE Korea & Japan The 2nd Goodwill Session の共催

- ・日 時: 2016年5月30日(月)～6月1日(水)
- ・会 場: Hwabaek International Convention Center (韓国・慶州)
- ・参加者: 会議の参加者(国連職員や NGO 等々の機関の代表者、有識者、メディアなど)数百名、UNAI ASPIRE Japan メンバー約 15 名 (+コーディネーター2名)、UNAI ASPIRE Korea メンバー数十名
- ・概 要: 2016年5月30日～6月1日、メインテーマ“Education for Global Citizenship: Achieving the SDGs Together”のもと開催された The 66th UN DPI / NGO Conference に参加し、予てよりオンラインミーティングなどで日韓 UNAI ASPIRE 共同で準備を進めてきた Workshop “The SDGs Generation: Who are they? (Make a Difference: Challenging and Empowering Youths to Achieve Global Citizenship)” を日韓で共催(最終日6月1日)。
また、会期中の5月31日の夜には、日韓 UNAI ASPIRE がともに滞在している

宿泊先の会議室を会場に、UNAI ASPIRE Korea & Japan The 2nd Goodwill Session を共催し、“100 Small Ideas (誰にでも出来るもの) to Achieve SDGs” を案出するため議論を行う。議論は深夜まで続く。

帰国後、会議や Goodwill Session の概要・感想を記した記事「国連広報局主催の国際 NGO 会議に学生 10 人が参加」を毎日新聞 @大学に寄稿しており、現在も同記事を閲覧することが出来る（[毎日新聞 @大学: 国連広報局主催の国際 NGO 会議に学生 10 人が参加] を参照のこと）。また、桜美林大学の学内記事「ASPIRE Japan のメンバーとして本学学生 10 名が The 66th UN DPI / NGO Conference で国際協働ワークショップを行いました」（筆者による）でも当時の様子を確認できる（[桜美林: The 66th UN DPI / NGO Conference] を参照のこと）。



図 29: UNAI ASPIRE Korea & Japan The 2nd Goodwill Session の風景



図 30: ワークショップでの発表の風景



図 31: UNAI ASPIRE Japan の面々

㊸ 日本私立大学協会 創立 70 周年記念国際シンポジウムへの参加・学生セッションの開催

- ・日 時: 2016 年 12 月 2 日 (金)
- ・会 場: アルカディア市ヶ谷 (日本・東京)
- ・参加者: シンポジウムの参加者 (日本私立大学協会加盟校の総長・学長や教職員、同協会と提携を結ぶ海外の協会関係者、有識者等々) 百数十名、UNAI ASPIRE Japan メンバー十数名 (+コーディネーター2 名) 並びに日本私立大学協会の紹介で企画の段階から参加していた学生数名 (複数大学より)
- ・概 要: 2016 年春頃までに、日本私立大学協会 (APUJ: Association of Private Universities of Japan) から、同協会の創立 70 周年記念国際シンポジウムにおいて学生セッションを (企画・運営・) 開催する旨オファーを受ける。以降、UNAI ASPIRE Japan メンバーで準備を開始し、留学経験や留学プログラムに関するアンケート調査の実施、新たな留学プログラムの考案等々を進める。

8 月 28 日～29 日には、桜美林大学 四谷キャンパス並びに国立オリンピック記念青少年総合センターにて夏合宿を行い、①国際シンポジウムの事前学習として、学校法人谷岡学園理事長・大阪商業大学学長である谷岡一郎氏による特別講義「大学のグローバル化と政治 –日本の為政者があまり考慮しない側面を中心に–」を受けるとともに、②予てより実施していたアンケート調査の結果報告・考案中の新たな留学プログラムの説明、③そして学生セッションの内容についての議論を実施する。

12 月 2 日、メインテーマ「東アジアにおける大学間交流の展望 –多様性を育む高等教育を目指して–」のもと開催された「日本私立大学協会 創立 70 周年記念国際シンポジウム」に参加し、プレゼンテーションパート並びにパネルディスカッションパートから成る学生セッション「量から質へ ～1-6-1 留学プログラム～」を開催する。プレゼンテーションでは、まず、実施したアンケート調査の結果、そこから得られる既存の留学・留学プログラムの功罪、留学それ自体やそれを取り巻く環境・潮流に対する問題提起などを説明し、その後、学生考案の全く新しい留学プログラム「1-6-1 留学プログラム」を提案する (本留学プログラムの詳細は、小笠原 (2018) を参照のこと)。パネルディスカッションでは、麗澤大学学長である中山理氏をモデレーターに迎え、留学経験のある学生たち 5 名が登壇し、スーパーショート留学プログラムについて自身の留学経験を交えつつ議論を行う。

本シンポジウム並びに学生セッションの詳細は桜美林大学の学内記事「私大協主催国際シンポジウムにて本学学生が ASPIRE Japan エグゼクティブ・メンバーとして学生セッションを実施」(筆者による) や麗澤大学の学内記事「12/2 本学

の教員と学生が私大協 70 周年記念国際シンポジウムに参加しました」で確認することが出来る ([桜美林: 70 周年国際シンポジウム] / [麗澤: 70 周年国際シンポジウム] を参照のこと)。



図 32: 発表を行う桜美林大学生

<p>ONE MONTH OF REGRET 後悔の1か月</p> <ul style="list-style-type: none"> — study abroad and take on difficult challenges. (留学し、困難な事に挑戦する) — return home with regrets on your failures or not trying. (失敗や挑戦できなかった事に対し後悔を抱きつつ帰国する) 	<p>1 Re gret</p>
<p>SIX MONTHS OF REFLECTION 内省の6か月</p> <ul style="list-style-type: none"> — reflect on the 1st study abroad “1 month of regret”, and sort out your experiences and regrets. (「後悔の1か月」を内省し、自身の経験や後悔をまとめ整理する) — keep learning and preparing for the next study abroad “1 month of retry”. (「再挑戦の1か月」に向け学習と準備を継続する) 	<p>6 Re flec tion</p>
<p>ONE MONTH OF RETRY 再挑戦の1か月</p> <ul style="list-style-type: none"> — retry the things you failed or couldn't try in “1 month of regret” applying reflection. (内省を踏まえ、「後悔の1か月」で失敗した事や出来なかった事に再び挑む) — gain more fulfilling and quality study abroad experience through retrying and letting go of past regrets. (再挑戦を通し後悔を払拭することで、より充実した留学経験を得る) 	<p>1 Re try</p>

11
BGLs (Creative Commons CC0) retrieved from Pixabay < > in August, 2017

図 33: 1-6-1 留学プログラムの概略図



図 34: パネルディスカッションの風景

④ IAUP 2017 Vienna 並びに Young Scientists Conference への参加

- ・日 時: 2017年7月5日(水)～8日(土)
- ・会 場: Hofburg 等 (オーストリア・ウィーン)
- ・参加者: IAUP に加盟する総長・学長など数百名のほか、有識者、要人、国連職員、国内外のメディアなど。UNAI ASPIRE Japan メンバー12名 (+コーディネーター2名) を含む各国の学生数十名。
- ・概 要: 2017年7月5日～8日、ウィーンのホーフブルク (+周辺会場) にて開催された IAUP 2017 Vienna 並びにこれと並行する形で開催された学部生・院生向けの Young Scientists Conference に参加する。

本総会への参加の詳細は桜美林大学の学内記事「UNAI ASPIRE Japan 代表団として本学の学生が IAUP Triennial Conference 2017- Vienna 並びに Young Scientists Conference に参加しました」(筆者による)で確認することが出来る([桜美林: IAUP2017]を参照のこと)。



図 35: Young Scientists Conference の風景



図 36: ワークショップ “World Cafe” の風景



図 37: ワークショップ“World Cafe”での発表を終えて



図 38: UNAI ASPIRE 桜美林並びに佐藤理事長を含む大学関係者

㊥ 平成29年度(通算第15回)国際交流推進協議会への参加・プレゼンテーションの実施

- ・日 時: 2017年9月13日(水)
- ・会 場: アルカディア市ヶ谷(日本・東京)
- ・参加者: 協議会の参加者(日本私立大学協会加盟校の総長・学長や国際担当の教職員、同協会と提携を結ぶ海外の協会関係者、政府関係者、有識者等々)百数十名、UNAI ASPIRE Japan メンバー10名(+コーディネーター2名)
- ・概 要: 2017年6月中旬頃までに、日本私立大学協会から、同協会の国際交流推進協議会にて学生発表を行う旨オファーを受ける。以降、1-6-1留学プログラムの利用サンプルを構築するなど、UNAI ASPIRE Japan メンバーで準備を進める。

9月13日、日本私立大学協会並びに同協会国際交流委員会が主催する「平成29年度(通算第15回)国際交流推進協議会」に参加し、1-6-1留学プログラムの利用サンプル提示を主眼に置いたプレゼンテーション「量から質へ～1-6-1留学プログラムのその後～」を行う(本利用サンプルの詳細は、小笠原(2018)を参照のこと)。



図 39: 発表を行う桜美林大学生

㊦ UNAI ASPIRE Japan & Korea The 3rd Goodwill Session の共催

- ・日 時: 2018年2月5日(月)～7日(水)
- ・会 場: 麗澤大学(日本・千葉・柏)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー約20名(+コーディネーター2名)、UNAI ASPIRE Korea メンバー6名
- ・概 要: 2018年2月5日～7日、麗澤大学にて UNAI ASPIRE Japan & Korea The 3rd Goodwill Session を UNAI ASPIRE Korea とともに共催する。日韓両国共通の社会問題である「(持続可能な開発との関連における) 少子高齢化社会」をテーマに据え、日韓 UNAI ASPIRE 双方の支部が事前調査を踏まえたプレゼンテーションを行い、テーマ並びに若者がどのように人生を歩んでいけるかについて議論を行う。会期前半にはレクリエーションなども実施し、親睦を深める。

本セッションの詳細は麗澤大学の学内記事「ASPIRE Reitaku が ASPIRE Japan & Korea 合同ミーティングに参加」並びに同大学学長室ウェブサイト「ASPIRE JAPAN&KOREA メンバーが学長訪問」で確認することが出来る([麗澤: The 3rd Goodwill Session] [麗澤: ASPIRE JAPAN&KOREA メンバーが学長訪問] を参照のこと)。



図 40: UNAI ASPIRE Japan 並びに UNAI ASPIRE Korea の面々

㉗ UNAI ASPIRE Korea & Japan The 4th Goodwill Session の共催

- ・日 時: 2018年7月5日(木)～8日(日)
- ・会 場: Korea University 並びに Hansung University (韓国・ソウル)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー約 15 名 (+コーディネーター2名)、UNAI ASPIRE Korea メンバー30名
- ・概 要: 2018年7月5日～8日、Korea University 並びに Hansung University にて UNAI ASPIRE Korea & Japan The 4th Goodwill Session を UNAI ASPIRE Korea とともに共催する。合計8つのトピック(基本的にはSDGsとの関連における日韓両国共通の社会問題: 1. Welfare System, 2. Gender Discrimination, 3. Soft Power, 4. Japan in Korean Textbooks, 5. Trade & Industry, 6. Korea in Japanese Textbooks, 7. Environmental Policies, 8. Aging Society)について、日韓 UNAI ASPIRE 双方の支部が事前調査を踏まえたプレゼンテーションを行い、それぞれのトピックについて議論を行う。また、現地ショートトリップや、レクリエーションなども実施し、お互いに親睦を深める。

本セッションの詳細は桜美林大学の学内記事「日韓の学生たちが UNAI ASPIRE Japan & Korea The 3rd Goodwill Session を共同企画・開催」(筆者による。またセッションのナンバリングが3rdとなっているが誤りである)で確認することが出来る([桜美林: The 4th Goodwill Session]を参照のこと)。



図 41: 各グループからの議論内容の発表

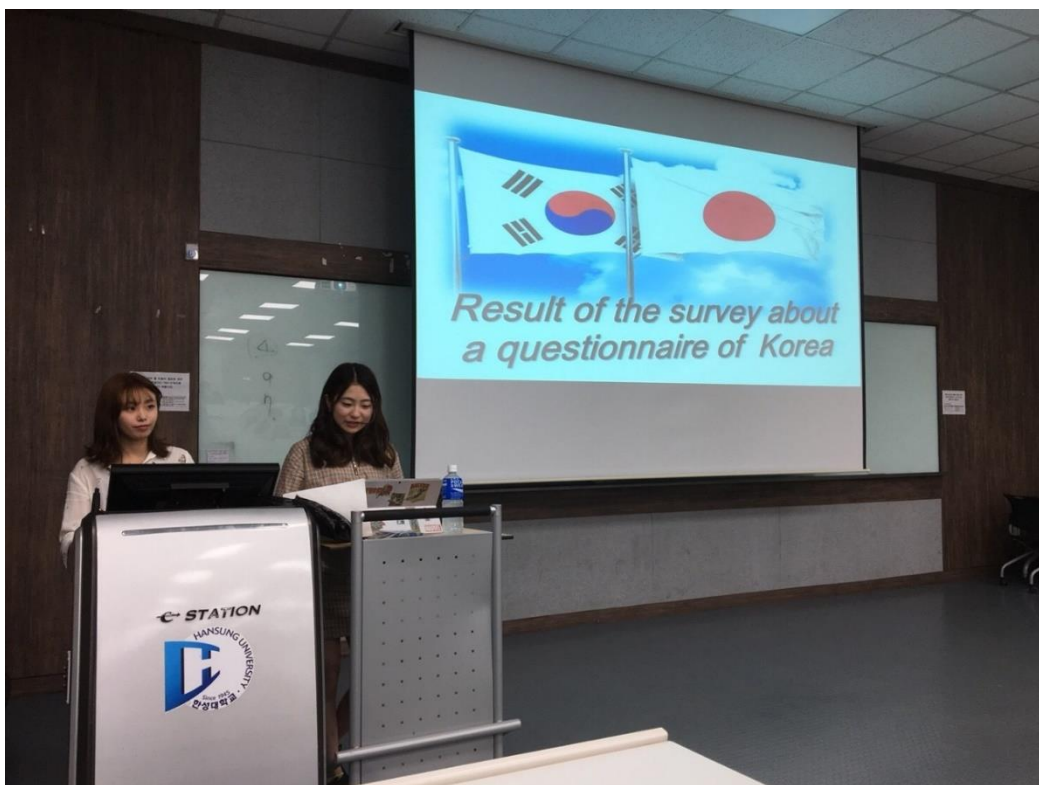


図 42: 桜美林大学からの発表



図 43: UNAI ASPIRE Japan 並びに UNAI ASPIRE Korea の面々

㊥ ASPIRE@STU Study Camp の樹徳科技大学との共催・樹徳科技大学の学生たちとの交流の始まり

- ・日 時: 2018年8月8日(水)～10日(金)
- ・会 場: 樹徳科技大学並びに高雄市内(台湾・高雄)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー14名(+コーディネーター2名、博士課程学生1名)、樹徳科技大学の学生・教職員計約20名
- ・概 要: 2018年8月8日～10日、樹徳科技大学にてASPIRE@STU Study Camp を樹徳科技大学とともに共催する。"How did Japan and Taiwan build the amicable relationship and develop it over the years?" といったテーマのもと、UNAI ASPIRE Japan メンバーと樹徳科技大学の学生たちが高雄市内を回る Study Tour に参加し、これを踏まえてのプレゼンテーション作成・発表、テーマに関する議論などを行う。

なお、本イベントは、日本私立大学協会と台湾の財団法人高等教育国際合作基金会(FICHET: Foundation for International Cooperation In Higher Education of Taiwan)間で結ばれた包括協定とこれによって構築された関係性を基盤に企画されている。

本イベントの詳細は桜美林大学の学内記事「日台の学生たちがお互いの大学を訪問し相互交流活動を実施」(筆者による)で確認することが出来る([桜美林: 日台学生の相互交流活動]を参照のこと)。



図 44: ASPIRE@STU Study Camp 初日を終えて



図 45: Study Tour にて



図 46: 議論の風景

㊸ 平成30年度(通算第16回)国際交流推進協議会への参加・プレゼンテーションの実施

- ・日 時: 2018年9月18日(火)
- ・会 場: アルカディア市ヶ谷(日本・東京)
- ・参加者: 協議会の参加者(日本私立大学協会加盟校の総長・学長や国際担当の教職員、同協会と提携を結ぶ海外の協会関係者、政府関係者、有識者等々)百数十名、UNAI ASPIRE Japan メンバー8名(+コーディネーター2名)
- ・概 要: 2018年6月下旬頃までに、日本私立大学協会から、同協会の国際交流推進協議会にて学生発表を行う旨オファーを受ける。以降、UNAI ASPIRE Japan メンバーで準備を進める。

9月18日、日本私立大学協会並びに同協会国際交流委員会が主催する「平成30年度(通算第16回)国際交流推進協議会」に参加し、プレゼンテーション「私達の留学～学生主体の新しい国際交流とは～」を行う。プレゼンテーションの中で学生たちは、自身の留学経験やUNAI ASPIRE Japanとしてのこれまでの活動に触れながら、学生自身の主体性や自発的な行動が留学・国際交流の質を高める要素であると述べるとともに、「学生の主体性に基づく質の高い留学・国際交流」を実現するために学生・大学双方が出来ることを提案する。

本協議会とプレゼンテーションに関する詳細は桜美林大学の学内記事『「平成30年度 国際交流推進協議会」で、本学学生がUNAI ASPIRE Japan 代表団の一員として発表を行いました』(筆者による)で確認することが出来る([桜美林:平成30年度 国際交流推進協議会]を参照のこと)。



図 47: 発表を行う桜美林大学生

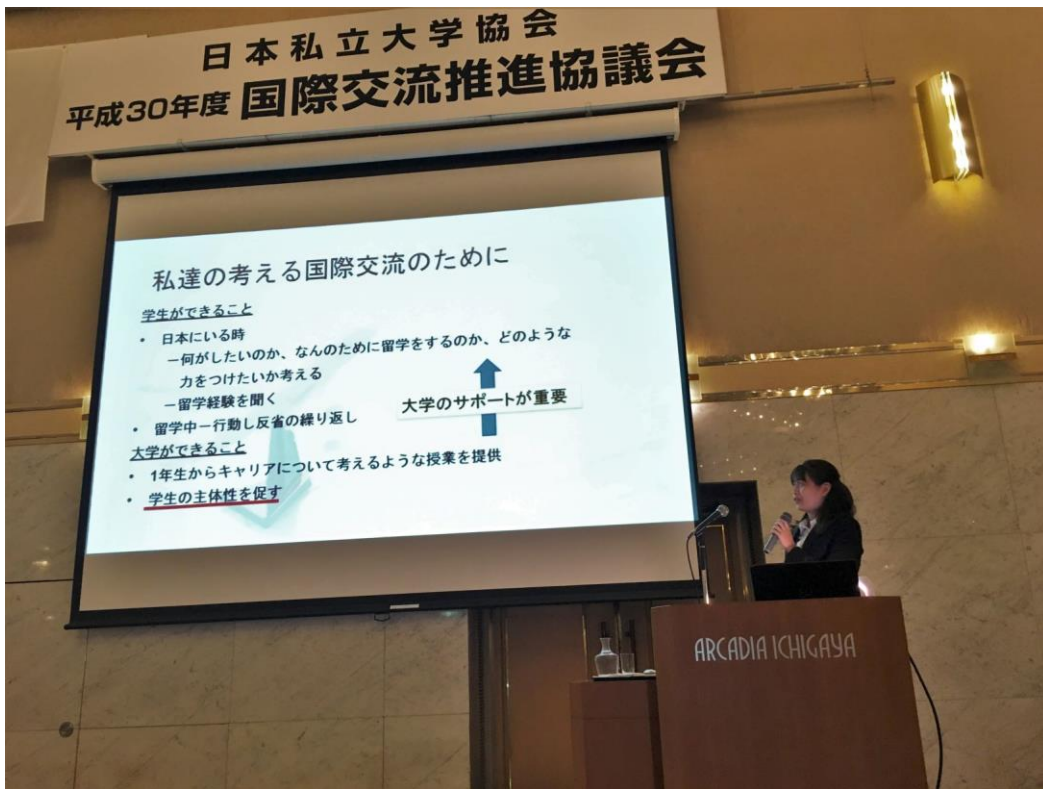


図 48: 発表を行う桜美林大学生



図 49: 協議会に参加した UNAI ASPIRE Japan 代表団の面

㊦ 樹徳科技大学の学生 初の訪日

- ・日 時: 2018年10月1日(月)、3日(水)
- ・会 場: 桜美林大学 町田キャンパス並びに麗澤大学 (日本・東京&千葉)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー5名 (+コーディネーター2名)、樹徳科技大学の学生9名 (+コーディネーター1名)
- ・概 要: 2018年10月1日~7日、樹徳科技大学企画による歴訪型国際交流イベント

“SHU-TE University Students Organization Leaders International Exchange”が関東圏内で開催され、初日となる10月1日には桜美林大学 町田キャンパスに、10月3日には麗澤大学に、それぞれ樹徳科技大学の学生たちが訪問し、学生団体の組織運営などについて意見を交換するほか、学生間国際交流を行う。

樹徳科技大学の学生たちによる両大学への訪問は、前述のASPIRE@STU Study Campに呼応する形で企画・実施されている。

本イベントの詳細は桜美林大学の学内記事「日台の学生たちがお互いの大学を訪問し相互交流活動を実施」(筆者による)で確認することが出来る([桜美林: 日台学生の相互交流活動]を参照のこと)。



図 50: SHU-TE University Students Organization Leaders International Exchange での学生間国際交流を終えて

㊦ UNAI ASPIRE Japan & Korea The 5th Goodwill Session の共催

- ・日 時: 2019年2月7日(木)～10日(日)
- ・会 場: 桜美林大学 四谷キャンパス (日本・東京)
- ・参加者: UNAI ASPIRE Japan メンバー19名 (+コーディネーター2名)、UNAI ASPIRE Korea メンバー14名
- ・概 要: 2019年2月7日～10日、桜美林大学 四谷キャンパスを会場に、UNAI ASPIRE Japan & Korea The 5th Goodwill Session を UNAI ASPIRE Korea と共催する。Goodwill Session に先立ち、日韓 UNAI ASPIRE 双方の支部が SDGs に係わる計6つのトピック (日韓両国共通の社会問題: Poverty, Environment, Women's Rights, Education, Climate, Health) を取上げ、日韓両国がそれぞれのゴールとゴールが対象とする社会的諸課題に対してどのような意識でいるのか、どのような行動を起こしているのか、またどのような課題が残され、国家レベル・市民レベルにおいて何をすべきか等々について事前調査を行う。会期中は、6つのトピックに関する (事前調査を踏まえた) プレゼンテーションの発表並びに議論が行われるが、これまで以上に細かな点にも注目した上で調査・発表・議論することで、より具体的且つ建設的なセッションを目指す。また、会期中にはレクリエーションや都内へのショートトリップも行われ、お互いに親睦を深めていく。本セッションの詳細は桜美林大学の学内記事「日韓の学生たちが UNAI ASPIRE Japan & Korea The 5th Goodwill Session を共同企画・開催」(筆者による)で確認することが出来る ([桜美林: The 5th Goodwill Session] を参照のこと)。



図 51: 桜美林大学からの発表



図 52: 各グループからの議論内容の発表



図 53: UNAI ASPIRE Japan 並びに UNAI ASPIRE Korea の面々

㊫ ラムー・ダモダラン氏の桜美林大学訪問・UNAI ASPIRE Japan とのセッション開催

- ・日 時: 2019年3月21(木)
- ・会 場: 桜美林大学 新宿キャンパス (日本・東京)
- ・参加者: ラムー・ダモダラン氏、UNAI ASPIRE Japan メンバー7名 (+コーディネーター2名)、桜美林大学教員1名
- ・概 要: 2019年3月21日、ラムー・ダモダラン氏 (Deputy Director for Partnerships and Public Engagement in the UNDPI Outreach Division, and Chief of UNAI) が再び桜美林大学と UNAI ASPIRE Japan のもとを訪問し、UNAI ASPIRE Japan メンバーによる活動・学習成果の報告に耳を傾けるとともに、ダイアログ形式の Q&A セッションに参加し、意見を交換する。



図 54: Q&A セッションの様子



図 55: ラムー・ダモダラン氏と UNAI ASPIRE Japan の面々

The Brief History of UNAI ASPIRE Japan

from the establishment to the present

2011 Japanese Academic Year

2012 | Jan. 16 – 18.

- The 1st UNAI ASPIRE Association Forum is held under the theme of “Aspire to Inspire before you Expire”, at Handong Global University, Korea. A student from J.F.Oberlin University participates in the forum as the representative.

2012 J.A.Y.

2012 | Aug. 25 – 26.

- Holds The 1st UNAI ASPIRE Japan Study Camp at J.F.Oberlin Univ. to discuss the concept or bylaw of UNAI ASPIRE Japan or to prepare for the first visit to UNAI ASPIRE Korea.

2012 | Dec. 19, 21.

- Holds the Information Session at J.F.Oberlin Univ. to introduce UNAI, UNAI ASPIRE, UNAI ASPIRE Japan, and its previous activities to the students and the faculty members.

2013 | Feb. 28.

- Participates in Dialogue between UN Deputy Secretary-General Jan Eliasson and University Students hosted by Meiji University, Japan.

2013 | Mar. 28.

- Starts making the Visits to UNAI Member Universities in Japan to introduce UNAI ASPIRE and encourage to establish a branch, beginning with the Visit to Nanzan University.

2013 J.A.Y.

2013 | Aug. 23.

- Participates in The 1st UNAI Collegian Research Paper Competition & Global Development Conference (at 63 Convention Center, Korea) held by UNAI Korea and gives the presentation of the research paper.

2012 | May.

- UNAI ASPIRE Japan is officially established in J.F.Oberlin Univ., Japan, and starts having Weekly / Monthly Meetings, including online ones.

2012 | Sep. 16 – 18.

- Makes The 1st Visit to UNAI ASPIRE Korea (at Handong Global Univ., where its secretariat locates) and faculty members of the univ., and introduces UNAI ASPIRE Japan, discusses the global issues, etc. Also, builds close and amicable relations with UNAI ASPIRE Korea by sharing the same time together.

2013 | Feb. 4 – 7.

- UNAI ASPIRE Korea makes The 1st Visit to UNAI ASPIRE Japan (at J.F.Oberlin Univ.) and faculty members of the univ., incl. Chancellor Satow and President Mitani. UNAI ASPIRE Japan welcomes Korea members and discusses future activities, collaborations, etc.

2013 | Mar. 20.

- Makes the Visit to UN Headquarters to discuss the future plans and prospects of UNAI ASPIRE Japan with UN staff engaged in UNAI. Also, participates in the event of International Day of Happiness.

2013 | by Summer

- Receives the Offer from IAUP (International Association of University Presidents) to plan and hold the student session at its 17th triennial conference, IAUP 2014 Yokohama.

2013 | Aug. 24.

- The day after the competition, joins the Student Session organized by UNAI ASPIRE Korea, introduces UNAI ASPIRE Japan, discusses efforts or activities to achieve MDGs, which students can do.

2013 J.A.Y.

*** Name of UNAI ASPIRE Japan**

In the beginning, the UNAI ASPIRE in J.F.Oberlin was the only branch in Japan, and it was synonymous with UNAI ASPIRE Japan itself.

After the establishment of other branches, the UNAI ASPIRE in J.F.Oberlin started to call themselves "UNAI ASPIRE J.F.Oberlin", and the name "UNAI ASPIRE Japan" began to be used for the time when all branches gather and work together.

This timeline only covers events of and activities as UNAI ASPIRE Japan.

2014 J.A.Y.

2013 – 2014 | until IAUP 2014 Yokohama

- Several UNAI member universities (Nanzan Univ., Reitaku Univ., Kanda Univ. of International Studies, Soka Univ.) establish **Branches of UNAI ASPIRE Japan*** for IAUP 2014 Yokohama, and the branches start getting together and preparing for the student session.

2014 | right after IAUP 2014 Yokohama

- Contributes **Two Articles** on the experience at the conference or statements in the student session to Mainichi Shimbun.

2014 | Aug. 28.

- Participates in **The 2nd UNAI Collegian Research Paper Contest & Global Conference** (at 63 Convention Center, Korea) held by UNAI Korea and gives the presentation of the research paper.

2015 J.A.Y.

2015 | after The 2nd UNAI Seoul Forum

- Contributes the **Article** on The 2nd UNAI Seoul Forum and the presentation to "@University" of Mainichi Shimbun.

2015 | by Summer

- Receives the **Offer from CETYS University**, Mexico, to visit the university and give the presentation explaining UNAI ASPIRE and UNAI ASPIRE Japan at the student conference.

2013 | Sep. 22.

- Mr. Ramu Damodaran, Chief of UNAI, visits to J.F.Oberlin Univ. and UNAI ASPIRE Japan, and the **Special Lecture & Dialogue Session with Chief Ramu Damodaran** on international cooperation, global education, student/youth initiatives, etc. is held.

2013 | Oct. 18.

- Participates in the **Presentation and Q&A Session on the Global Operational Presence / Global Promotion of UNAI by Maher Nasser, Director of the Outreach Division in the UNDPI** (at UN University, Japan) held by UN Information Centre.

2014 | Apr. 25.

- Gives the presentation at the **Prior Orientation of IAUP 2014 Host Country** to explain about the student session named "Voices of the Future".

2014 | early in Jun.

- Contributes the **Article "Students – Aspiring for a better world" to University World News**, and introduces UNAI, UNAI ASPIRE and the future prospects, etc. of UNAI ASPIRE Japan. The date of release is June 13th.

2014 | Jun. 11 – 14.

- Participates in **IAUP 2014 Yokohama** (at PACIFICO Yokohama, Japan) and holds **The Special Plenary Panel "Voices of the Future"** (the student session).

Univ. students from various countries gather and ① discusses "Global Citizen: What kind of people are they? What kind of things – skills, ability and mind are necessary? How can we develop those elements in Univ.?" and "How can students and universities contribute to world peace?" as the prior discussion, ② runs the student panel discussion regarding the prior discussion, ③ delivers statements on the future of higher education, which are aimed at the chancellors or presidents of universities around the world (the participants). The representative of UNAI ASPIRE Korea also comes and makes the statement.

2015 | May. 20.

- Participates in **The 2nd UNAI Seoul Forum** and gives the presentation explaining the concepts, past activities, achievements or future prospects of UNAI ASPIRE Japan. After the forum, discusses upcoming events in Japan & Korea with UNAI ASPIRE Korea.

2015 | May. 29 – 31.

- Holds **UNAI ASPIRE Japan & Korea The 1st Goodwill Session** together with UNAI ASPIRE Korea at J.F.Oberlin Univ., Japan.

Based on the close and amicable relations developed by collaborations through years, students from both countries research, prepare, introduce and learn not only each culture or country but also recognition on the bilateral issues. The mutual understanding and friendship are deepened through the session.

2015 J.A.Y.

2015 | Aug. 12.

- Holds the **UNAI ASPIRE Japan Summer Camp** at Nanzan Univ. for the upcoming or future activities.

2015 | Sep. 11.

- Deepens the friendship with UNAI ASPIRE Korea through **Exchanges**, and has **Rehearsals** or **Final Preparations** together for the next day.

2015 | Sep. 17 – 18.

- Makes **The 1st Visit to CETYS University**, Mexicali, Mexico, and gives the presentation explaining UNAI ASPIRE, past activities & future prospects of UNAI ASPIRE Japan, at the **Student Conference**.
UNAI ASPIRE Korea (online) and the student organization of CETYS Univ. "FORTES" also give the presentations about themselves.
Also, builds friendship with FORTES students through mutual exchanges, the **Study Tour in Mexicali** (on 18th), etc.

2016 J.A.Y.

2016 | May. 30. – Jun. 1.

- Participates in **The 66th UN DPI / NGO Conference** (at Hwabaek International Convention Center, Gyeongju, Korea) held under the theme "Education for Global Citizenship: Achieving the SDGs Together".

Cohosts the **Workshop "The SDGs Generation: Who are they? (Make a Difference: Challenging and Empowering Youths to Achieve Global Citizenship)"** together with UNAI ASPIRE Korea in the conference on Jun.1st.

Also, holds **UNAI ASPIRE Korea & Japan The 2nd Goodwill Session** together with UNAI ASPIRE Korea on the night of May 31st. Students discuss and try to create "100 Small Ideas (something anyone can do) to Achieve SDGs" until midnight.

2016 | Dec. 2.

- Participates in **APUJ 70th Anniversary International Symposium** (at Arcadia Ichigaya, Japan), and holds the **Student Session "from Quantity to Quality: 1-6-1 Study Abroad Program"** consists of the presentation part and the panel discussion part.

At the presentation part, students begin by showing the results of the questionnaire survey and mentioning good & bad aspects of: existing study abroad programs and the trend / promotion of studying abroad itself, then, **Propose the Radically New Study Abroad Program "1-6-1 Study Abroad Program"** (ref. Int'l Journal of Advanced Studies, 2017, vol.1 of J.F.Oberlin Univ. for details).

At the **Panel Discussion** part, **Dr. Osamu Nakayama** (as moderator), President of Reitaku University, and **Students** discuss super-short study abroad programs mentioning their own study abroad experiences.

2015 | Jul. 4.

- Holds the **Study & Discussion Session at Nanzan Univ.** to deepen understanding of Mexico, for the visit to CETYS Univ.

2015 | Aug. 18 – 19.

- **Welcomes UNAI ASPIRE Korea in Osaka**, and discusses, plans, prepares (+ conducts on-the-street interviews) for The 1st UNAI ASPIRE Global Citizenship Forum to be held in Korea in Sep.

2015 | Sep. 12 – 13.

- Participates in **The 1st UNAI ASPIRE Global Citizenship Forum** (at Handong Global Univ.) held under the theme "Global Citizenship and Youth's role as Global Citizens" by UNAI ASPIRE Korea.

Co-hosts the **Forum Session** with UNAI ASPIRE Korea, and each representative gives presentation together (explaining UNAI, UNAI ASPIRE and UNAI ASPIRE Japan and Korea). At the same time, runs the **Exhibition Booth** introducing UNAI ASPIRE Japan.

Also, on 13th, participates in **Cultural Exchange Program** of the forum, and explores Gyeongju (Cheomseongdae, Gyocheon Hanok Village, Gyeongju National Museum, etc.) doing some fun activities.

2016 | by Spring

- **Receives the Offer from APUJ** (Association of Private Universities of Japan) to plan and hold the student session at APUJ 70th Anniversary International Symposium, and starts preparations such as planning contents of the session, conducting the questionnaire survey on studying abroad or study abroad programs, creating the radically new study abroad program, and so on.

2016 | after The 66th UN DPI / NGO Conference

- **Contributes the Article** on The 66th UN DPI / NGO Conference and The 2nd UNAI ASPIRE Korea & Japan Goodwill Session to "@University" of Mainichi Shimbun.

2016 | Aug. 28 – 29.

- Holds **UNAI ASPIRE Japan Summer Camp** for the student session of APUJ 70th Anniversary International Symposium, at J.F.Oberlin Univ. & National Olympic Memorial Youth Center.

Students share and discuss: the results of the questionnaire survey on experiences of studying abroad or study abroad programs themselves, the progress of the preparation for the student session including the radically new study abroad program under development, the contents of the student session.

Also, as the prior-learning for the int'l symposium, listens to the **Special Lecture "Globalization of Universities, and Politics"** by **Dr. Ichiro Tanioka**, President of Osaka University of Commerce & Chancellor of Tanioka Gakuen Educational Foundation.

2017 J.A.Y.

2017 | by the middle of Jun.

- **Receives the Offer from APUJ** to give the presentation at the 15th International Exchange Promotion Conference hosted by APUJ and its Committee for Int'l Exchange, and starts preparations.

2017 | Jul. 5 – 8.

- Participates in IAUP's 18th triennial conference, **IAUP 2017 Vienna**, and its parallel conference for graduate & undergraduate students, **Young Scientists Conference** (both at Hofburg, Vienna, Austria) .

2018 | Feb. 5 – 7.

- Holds **UNAI ASPIRE Japan & Korea The 3rd Goodwill Session** (at Reitaku University, Japan) together with UNAI ASPIRE Korea.

Under the theme of the aging society (in connection with / in terms of the sustainable development), one of the common social issues between Japan and Korea, branches give the presentations reflecting their prior-research, and discuss the theme & how youth could go through their life.

2018 | Jul. 5 – 8.

- Holds **UNAI ASPIRE Korea & Japan The 4th Goodwill Session** (at Korea University & Hansung University, Korea) together with UNAI ASPIRE Korea.

Branches give eight presentations in total (topics are basically based on common social issues between Japan and Korea: welfare system, gender discrimination, soft power, Japan in Korean textbooks, trade & industry, Korea in Japanese textbooks, environmental policies, aging society) reflecting their prior-research, and discuss these eight topics.

2018 | Sep. 18.

- Participates in **The 16th International Exchange Promotion Conference** hosted by APUJ and its Committee for Int'l Exchange, and gives the presentation "Our Study Abroad – New International Exchange with Students' Initiative (/ Autonomy)".

Students mention their experiences in study abroad or recent activities overseas, and deliver the opinion that students' initiative (/ autonomy) or self-motivated (/ autonomous) attitude & act are factors to improve the quality of study abroad & int'l exchanges. Also, students propose the ideas to achieve "quality study abroad & int'l exchanges, based on students' initiative (/ autonomy)" which universities & students themselves can do.

2019 | Feb. 7 – 10.

- Holds **UNAI ASPIRE Japan & Korea The 5th Goodwill Session** (at J.F.Oberlin Univ.) together with UNAI ASPIRE Korea.

Prior to the session, branches pick out six topics from / associated with SDGs (poverty, environment, women's rights, education, climate, health), and research about the topic such as: awareness or consciousness toward the topic among Japanese and Korean, actions taken in both countries, issues and challenges still remaining in both, things should be done at a national and grassroots level, and so on. At the session, branches give six presentations reflecting their prior-research, and discuss each topic above.

2017 | Sep. 13.

- Participates in **The 15th International Exchange Promotion Conference** hosted by APUJ and its Committee for Int'l Exchange, and gives the presentation on 1-6-1 Study Abroad Program and its example of use (model case example) developed through the preparation (ref. Int'l Journal of Advanced Studies, 2017, vol.1 of J.F.Oberlin Univ. for details).

2018 J.A.Y.

2018 | by the end of Jun.

- **Receives the Offer from APUJ** to give the presentation at the 16th International Exchange Promotion Conference hosted by APUJ and its Committee for Int'l Exchange, and starts preparations.

2018 | Aug. 8 – 10.

- Holds **ASPIRE@STU Study Camp** (at Shu-Te University, Kaohsiung, Taiwan. planned on the basis of the relationship built by the agreement between APUJ & FICHET: Foundation for International Cooperation in Higher Education of Taiwan) together with Shu-Te University.

Under the theme of "How did Japan and Taiwan build the amicable relationship and develop it over the years?", UNAI ASPIRE Japan & students of Shu-Te Univ. go on the study tour around Kaohsiung, give presentations reflecting the study tour, discuss the theme. Also, friendship with the students is built through mutual exchanges.

2018 | Oct. 1, 3.

- Students from Shu-Te Univ. make visits to J.F.Oberlin Univ. (on 1st) and Reitaku Univ. (on 3rd) as part of their round-of-visits int'l exchange program "**SHU-TE University Students Organization Leaders International Exchange**", and exchange views mainly on how to run or manage student organizations. These visits are planned in response to ASPIRE@STU Study Camp.

2019 | Mar. 21.

- **Mr. Ramu Damodaran, Chief of UNAI, makes visit to J.F.Oberlin Univ. and UNAI ASPIRE Japan.**

as of March 21st, 2019

参考文献

小笠原惇也 (2018) 「短期海外留学の質的側面の充足を目指した大学生による取り組み — 1-6-1 留学プログラムの考案—」『桜美林大学総合研究機構紀要 国際学術研究』 Vol.1, pp.50-60.

小笠原惇也 (2019) 「UNAI ASPIRE Japan と UNAI ASPIRE Korea 国際協働活動の歩み」『日本私立大学協会 平成 30 年度国際交流事業報告書』

福住正兄筆記, 佐々井信太郎校訂 (1941) 『二宮翁夜話』* 改版, 岩波書店, 東京.

* 『二宮翁夜話』は「二宮尊徳 (1787—1856) の弟子・福住正兄 (1824—92) が身边につかえつつ 4 年にわたって師の言動をつぶさに記した筆録」[岩波書店: 二宮翁夜話] である。

参考ウェブサイト・動画

aspresungyung (YouTube) “Introduction of UNAI ASPIRE ..wmv” <

<https://www.youtube.com/watch?v=oQJnC7bAkh0> > Retrieved in March, 2019.

[aspresungyung: YouTube: Introduction of UNAI ASPIRE]

Handong Global University “HGU Held the First UNAI ASPIRE Association Forum” <

<https://www.handong.edu/eng/news/news/?mode=view&id=7191&group=0> >

Retrieved in March, 2019. [HGU: The 1st UNAI ASPIRE Association Forum]

UN “United Nations Academic Impact Newsletter (April 2013)” <

[https://uploads.strikinglycdn.com/files/c976980a-c6ea-4e2a-8320-](https://uploads.strikinglycdn.com/files/c976980a-c6ea-4e2a-8320-29eb1065a5a1/20130318Newsletter_April.pdf)

[29eb1065a5a1/20130318Newsletter_April.pdf](https://uploads.strikinglycdn.com/files/c976980a-c6ea-4e2a-8320-29eb1065a5a1/20130318Newsletter_April.pdf) > Retrieved in March, 2019. [UN:

UNAI Newsletter (April 2013)]

UNAI “About UNAI” < <https://academicimpact.un.org/content/about-unai> > Retrieved

in March, 2019. [UNAI: About UNAI]

UNAI “ASPIRE” < <https://academicimpact.un.org/content/aspire-0> > Retrieved in

March, 2019. [UNAI: ASPIRE]

UNAI “UNAI Member List November 2018” <

<https://academicimpact.un.org/content/unai-member-list-november-2018> >

Retrieved in March, 2019. [UNAI: Member List Nov. 2018]

UNAI (日本ウェブサイト) 「アカデミック・インパクトとは」 <

<https://www.academicimpact.jp/about/introduction/> > Retrieved in March, 2019.

[UNAI 日本: アカデミック・インパクトとは]

UNAI (日本ウェブサイト) 「10/18 (金) 開催 国連広報局アウトリーチ部部長による
UNAI グローバル展開に関するセッションのご案内」 <

<https://www.academicimpact.jp/un-news/uncategorized/2013/10/09152222/> >

Retrieved in March, 2019. [UNAI 日本: UNAI グローバル展開に関するセッション]

University World News “Students – Aspiring for a better world” <

<https://www.universityworldnews.com/post.php?story=20140610153041921> >

Retrieved in March, 2019. [UWN: Students – Aspiring for a better world]

岩波書店「二宮翁夜話」 < <https://www.iwanami.co.jp/book/b246048.html> > Retrieved in
March, 2019. [岩波書店: 二宮翁夜話]

桜美林大学 “ASPIRE Japan to present report on December 19 and 21” <

<https://www.obirin.ac.jp/en/topics/2012/7fl2960000023x0z.html> > Retrieved in

March, 2019. [桜美林: ASPIRE Japan to present report on December 19 and 21]

桜美林大学 “Four ASPIRE Japan members invited to research paper competition in

South Korea” < <https://www.obirin.ac.jp/en/topics/2013/7fl296000002500p.html> >

Retrieved in March, 2019. [桜美林: The 1st UNAI Collegian Research Paper
Competition & Global Development Conference]

桜美林大学 “J. F. Oberlin students participate in IAUP 2014 conference as members of

ASPIRE Japan” < <https://www.obirin.ac.jp/en/topics/2014/7fl2960000026620.html> >

Retrieved in March, 2019. [桜美林: participate in IAUP 2014 conference as
members of ASPIRE Japan]

桜美林大学 「グローバルな試みへと発展する ASPIRE」 <

https://www.obirin.ac.jp/info/year_2015/7fl296000007cg3b.html > Retrieved in

March, 2019. [桜美林: The 2nd UNAI Seoul Forum]

桜美林大学 「“グローバル”が日常に！ASPIRE Japan・Korea による ASPIRE フォーラム

を開催しました」 < https://www.obirin.ac.jp/info/year_2015/7fl296000007cn2o.html

> Retrieved in March, 2019. [桜美林: UNAI ASPIRE Japan & Korea The 1st
Goodwill Session]

桜美林大学 「ASPIRE Japan のメンバーとして本学学生 10 名が The 66th UN DPI /

NGO Conference で国際協働ワークショップを行いました」 <

https://www.obirin.ac.jp/info/year_2016/7fl296000007rig5.html > Retrieved in

March, 2019. [桜美林: The 66th UN DPI / NGO Conference]

桜美林大学 「私大協主催国際シンポジウムにて本学学生が ASPIRE Japan エグゼクティ

ブ・メンバーとして学生セッションを実施」<

https://www.obirin.ac.jp/info/year_2016/7f12960000086i17.html > Retrieved in March, 2019. [桜美林: 70周年国際シンポジウム]

桜美林大学「UNAI ASPIRE Japan 代表団として本学の学生が IAUP Triennial Conference 2017- Vienna 並びに Young Scientists Conference に参加しました」<
<https://www.obirin.jp/topics/mb9v5b00000011cc.html> > Retrieved in March, 2019. [桜美林: IAUP2017]

桜美林大学「日韓の学生たちが UNAI ASPIRE Japan & Korea The 3rd Goodwill Session を共同企画・開催」<
https://www.obirin.ac.jp/info/year_2018/r11i8i0000023rou.html > Retrieved in March, 2019. [桜美林: The 4th Goodwill Session]

桜美林大学「日台の学生たちがお互いの大学を訪問し相互交流活動を実施」<
https://www.obirin.ac.jp/info/year_2018/r11i8i00000294dc.html > Retrieved in March, 2019. [桜美林: 日台学生の相互交流活動]

桜美林大学「平成 30 年度 国際交流推進協議会」で、本学学生が UNAI ASPIRE Japan 代表団の一員として発表を行いました」<
https://www.obirin.ac.jp/info/year_2018/r11i8i000002940k.html > Retrieved in March, 2019. [桜美林: 平成 30 年度 国際交流推進協議会]

桜美林大学「日韓の学生たちが UNAI ASPIRE Japan & Korea The 5th Goodwill Session を共同企画・開催」<
https://www.obirin.ac.jp/info/year_2018/r11i8i000002hcfo.html > Retrieved in March, 2019. [桜美林: The 5th Goodwill Session]

毎日新聞 @大学「国連アカデミックインパクトのフォーラムで学生が成果発表」<
<https://mainichi.jp/univ/articles/20150609/org/00m/100/010000c> > Retrieved in March, 2019. [毎日新聞 @大学: 国連アカデミックインパクトのフォーラムで学生が成果発表]

毎日新聞 @大学「国連広報局主催の国際 NGO 会議に学生 10 人が参加」<
<http://mainichi.jp/univ/articles/20160610/org/00m/100/021000c> > Retrieved in March, 2019. [毎日新聞 @大学: 国連広報局主催の国際 NGO 会議に学生 10 人が参加]

明治大学『「ヤン・エリアソン国連副事務総長と学生達とのダイアログ」開催』<
<https://www.meiji.ac.jp/gakuchou/info/2012/6t5h7p00000efw13.html> > Retrieved in March, 2019. [明治大学: ヤン・エリアソン国連副事務総長と学生達とのダイアログ]

麗澤大学「外国語学部学生が中山学長に国連アカデミックインパクト第2回世界会議の報告」 < <http://www.reitaku-u.ac.jp/president/smile/20140926-6682.html> > Retrieved in March, 2019. [麗澤: The 2nd UNAI Collegian Research Paper Contest & Global Conference]

麗澤大学「ASPIRE Reitaku のメンバーが The 1st UNAI ASPIRE Global Citizenship Forum に参加」 < <https://www.reitaku-u.ac.jp/2015/10/08/53580> > Retrieved in March, 2019. [麗澤: The 1st UNAI ASPIRE Global Citizenship Forum]

麗澤大学「ASPIRE Mexico 創設の支援に学生が参加」 < <https://www.reitaku-u.ac.jp/2015/10/08/53607> > Retrieved in March, 2019. [麗澤: Mexico]

麗澤大学「12/2 本学の教員と学生が私大協 70 周年記念国際シンポジウムに参加しました」 < <https://www.reitaku-u.ac.jp/2016/12/07/59846> > Retrieved in March, 2019. [麗澤: 70 周年国際シンポジウム]

麗澤大学「ASPIRE Reitaku が ASPIRE Japan&Korea 合同ミーティングに参加」 < <https://www.reitaku-u.ac.jp/2018/02/21/65307> > Retrieved in March, 2019. [麗澤: The 3rd Goodwill Session]

麗澤大学 学長室 Website「ASPIRE JAPAN&KOREA メンバーが学長訪問」 < <http://www.reitaku-u.ac.jp/president/smile/20180213-9424.html> > Retrieved in March, 2019. [麗澤: ASPIRE JAPAN&KOREA メンバーが学長訪問]

雑誌名 国際学術研究 (2018 Vol.2)
International Journal of Advanced Studies

発行者 総合研究機構長 田中義郎

発行日 2019年3月29日

発行所 桜美林大学総合研究機構
〒194-0294 東京都町田市常盤町3758
TEL: 042-797-2661 (代表)

編集事務局 桜美林大学総合研究機構グローバル高等教育研究所
TEL: 042-797-6928

注) 桜美林大学総合研究機構紀要『国際学術研究』の各種規定は別に定めています。詳細につきましては、編集事務局までお問合せ下さい。

2018
Vol.2